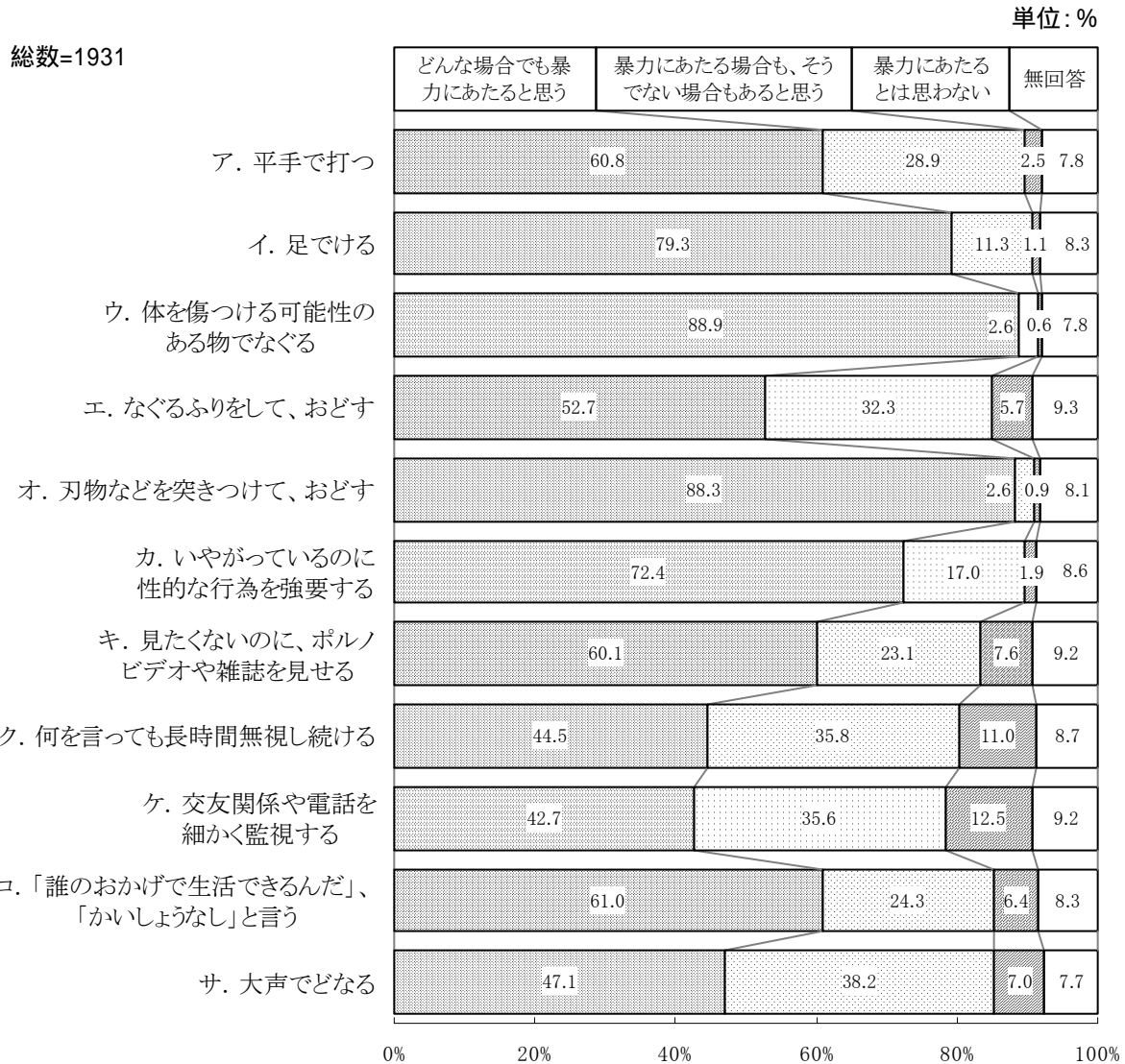


## 配偶者などからの暴力について

### 問17 暴力として認識される行為

問17 あなたは、次のようなことが配偶者などの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。  
(それぞれについて、あてはまるものに を1つ)

図表 21 - 1 暴力として認識される行為



#### 全体傾向

配偶者間で行われる行為について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多い項目は、「体を傷つける可能性のある物でなぐる」(88.9%)、「刃物などを突きつけて、おどす」(88.3%)、「足でける」(79.3%)、「いやがっているのに性的な行為を強要する」(72.4%)で、他の項目よりも暴力であると認識される割合が高くなっています。

これに対して、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が比較的多かったのは、「交友関係や電話を細かく監視する」(12.5%)と「何を言っても長期間無視し続ける」(11.0%)で、暴力であるという認識を持っていない人が10%を超えています(図表21-1)。

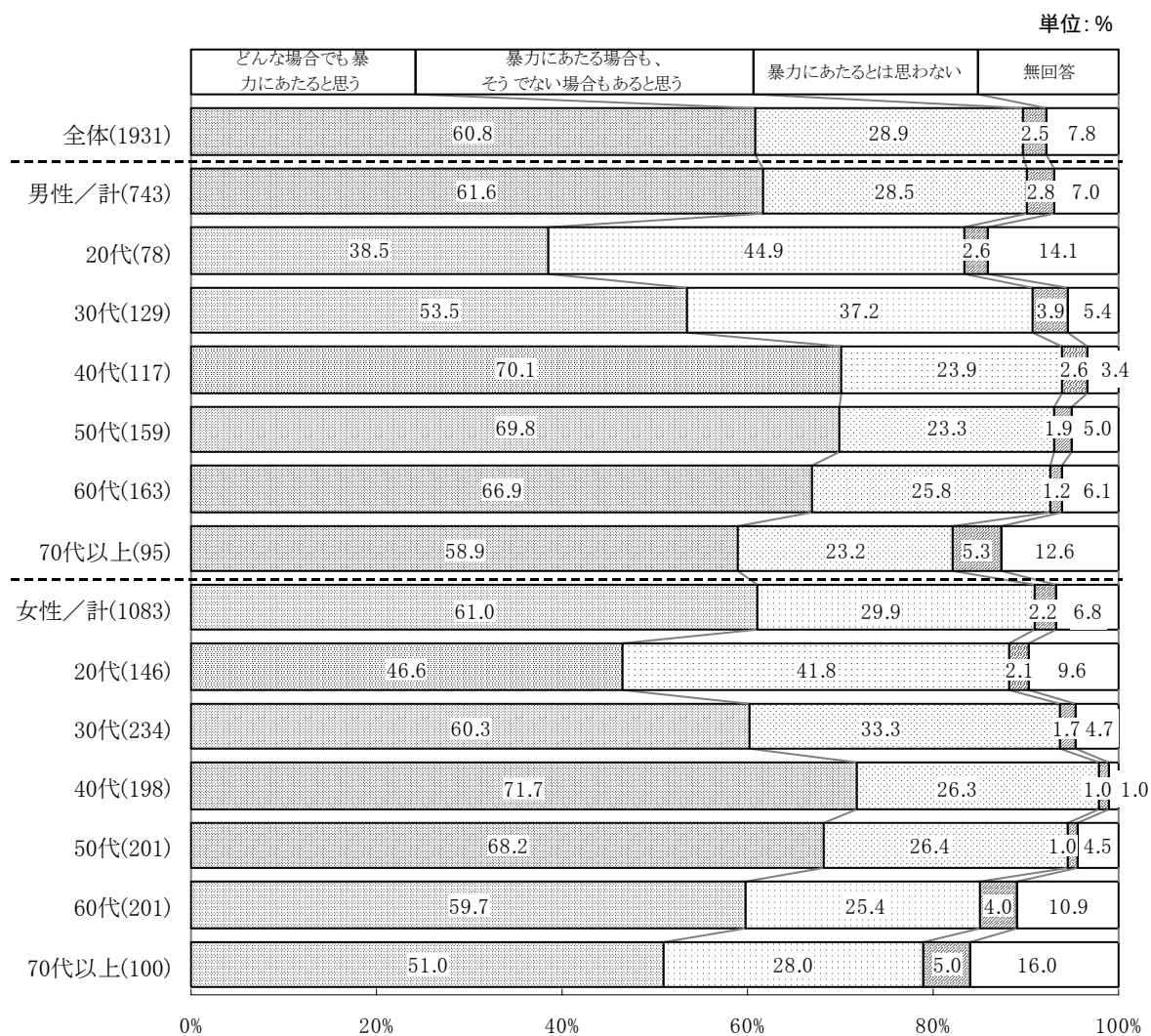
第3章 - 配偶者などからの暴力について

ア．暴力として認識される行為「平手で打つ」

「平手で打つ」は、男女とも若い年代ほど、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」人がやや多くなる傾向があります。

特に20代は男女ともに40%以上が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と答えています(図表21-2)。

図表 21 - 2 暴力として認識される行為「平手で打つ」

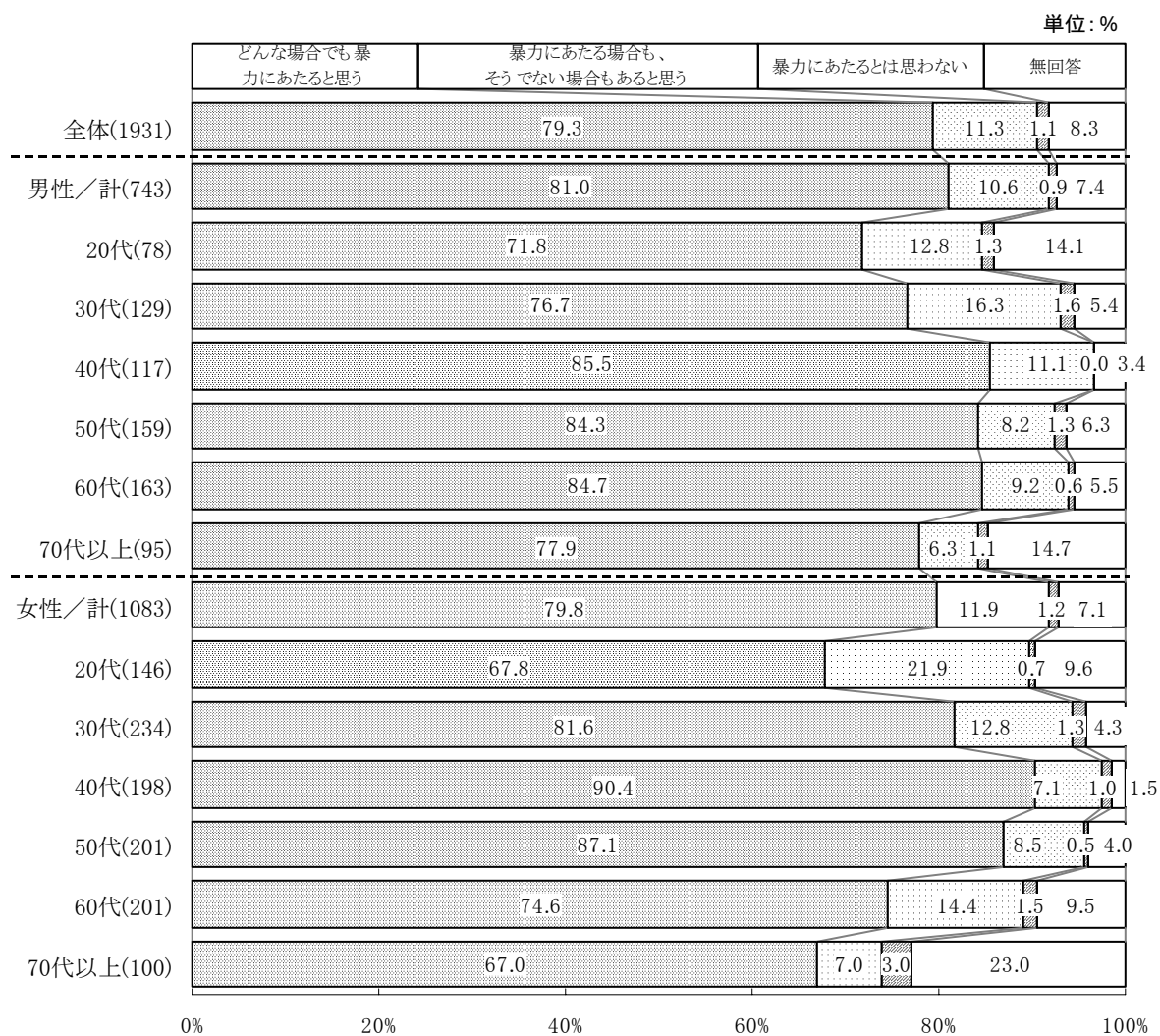


イ．暴力として認識される行為「足でける」

「足でける」は、男女ともいずれの年代でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が80%前後を占めています。

ただし、女性の20代で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答が21.9%で、他の性・年代に比べ多くなっています(図表21-3)。

図表21-3 暴力として認識される行為「足でける」

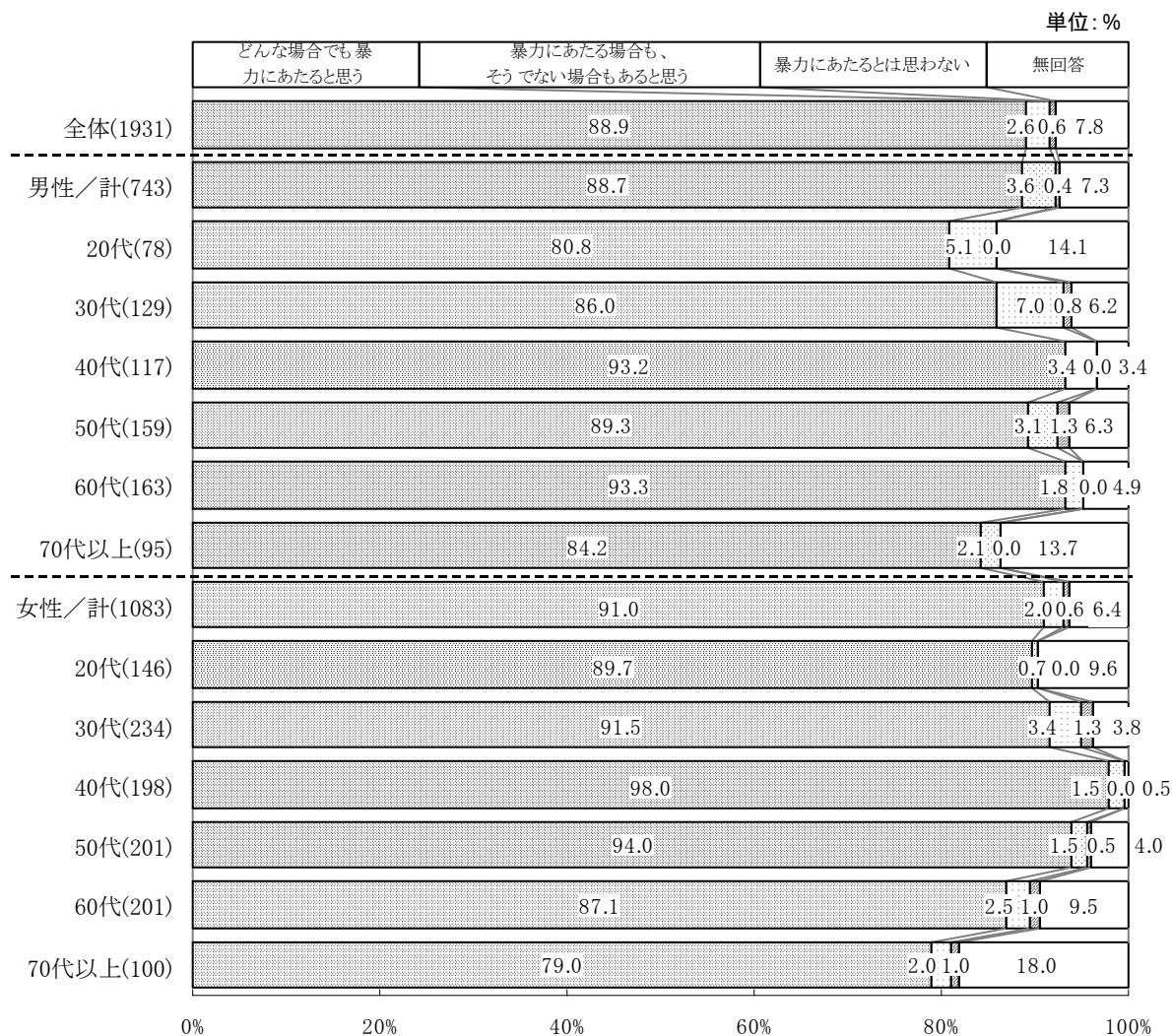


第3章 - 配偶者などからの暴力について

ウ．暴力として認識される行為「体を傷つける可能性のある物でなくる」

「身体を傷つける可能性のある物でなくる」は、男女ともすべての年代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答する割合が90%前後に達し、高い割合を占めています（図表21-4）。

図表 21 - 4 暴力として認識される行為「体を傷つける可能性のある物でなくる」

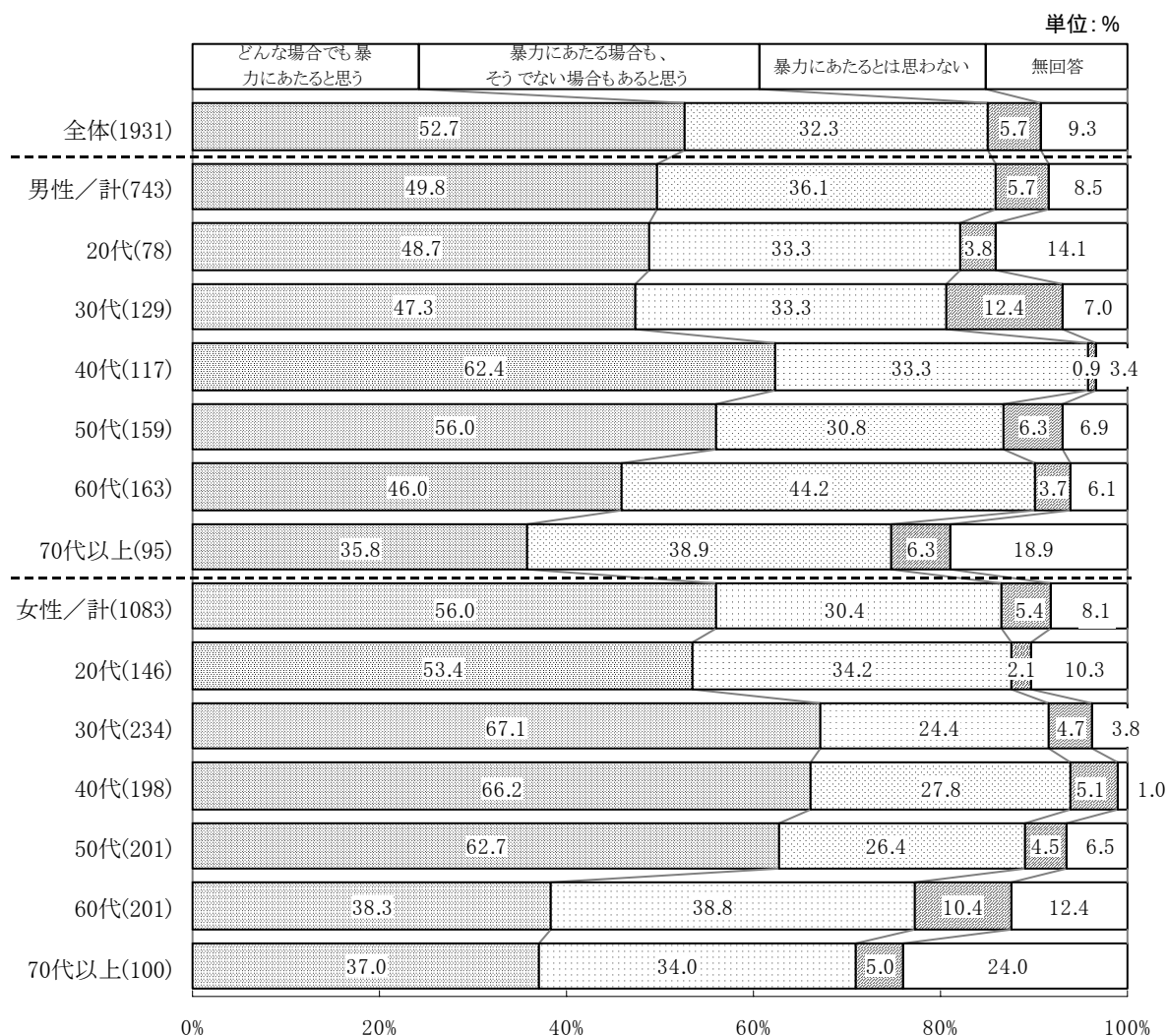


エ．暴力として認識される行為「なぐるふりをして、おどす」

「なぐるふりをして、おどす」ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人は、男性の40代と女性の30代～50代で60%以上と多くなっています。

一方、男性の30代と女性の60代では、10%以上が「暴力にあたるとは思わない」と答えています(図表21-5)。

図表21-5 暴力として認識される行為「なぐるふりをして、おどす」

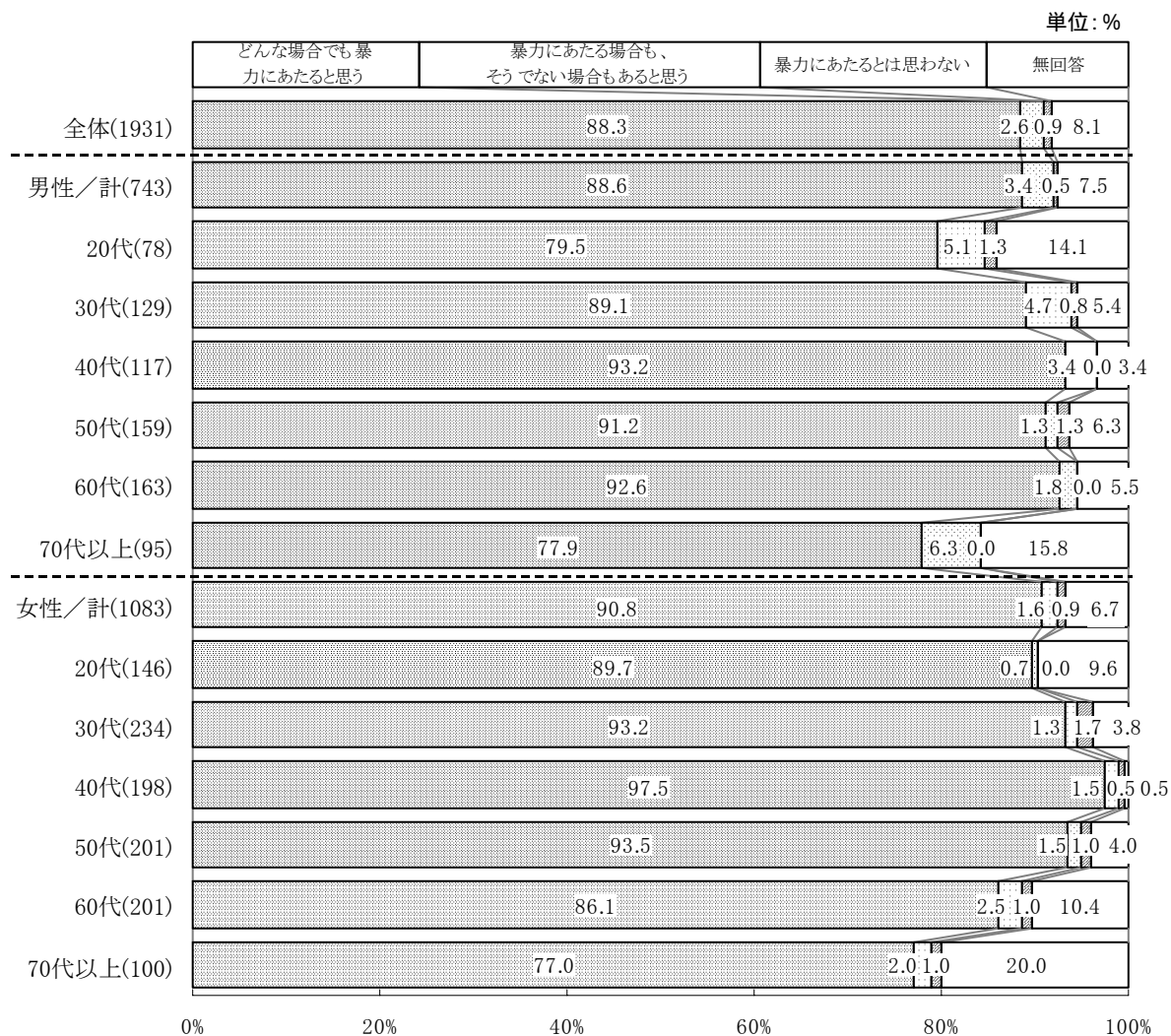


第3章 - 配偶者などからの暴力について

オ．暴力として認識される行為「刃物などを突きつけて、おどす」

「刃物などを突きつけて、おどす」ことは、男女ともすべての年代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識する割合が80%から90%前後に達しています(図表21-6)。

図表21-6 暴力として認識される行為「刃物などを突きつけて、おどす」

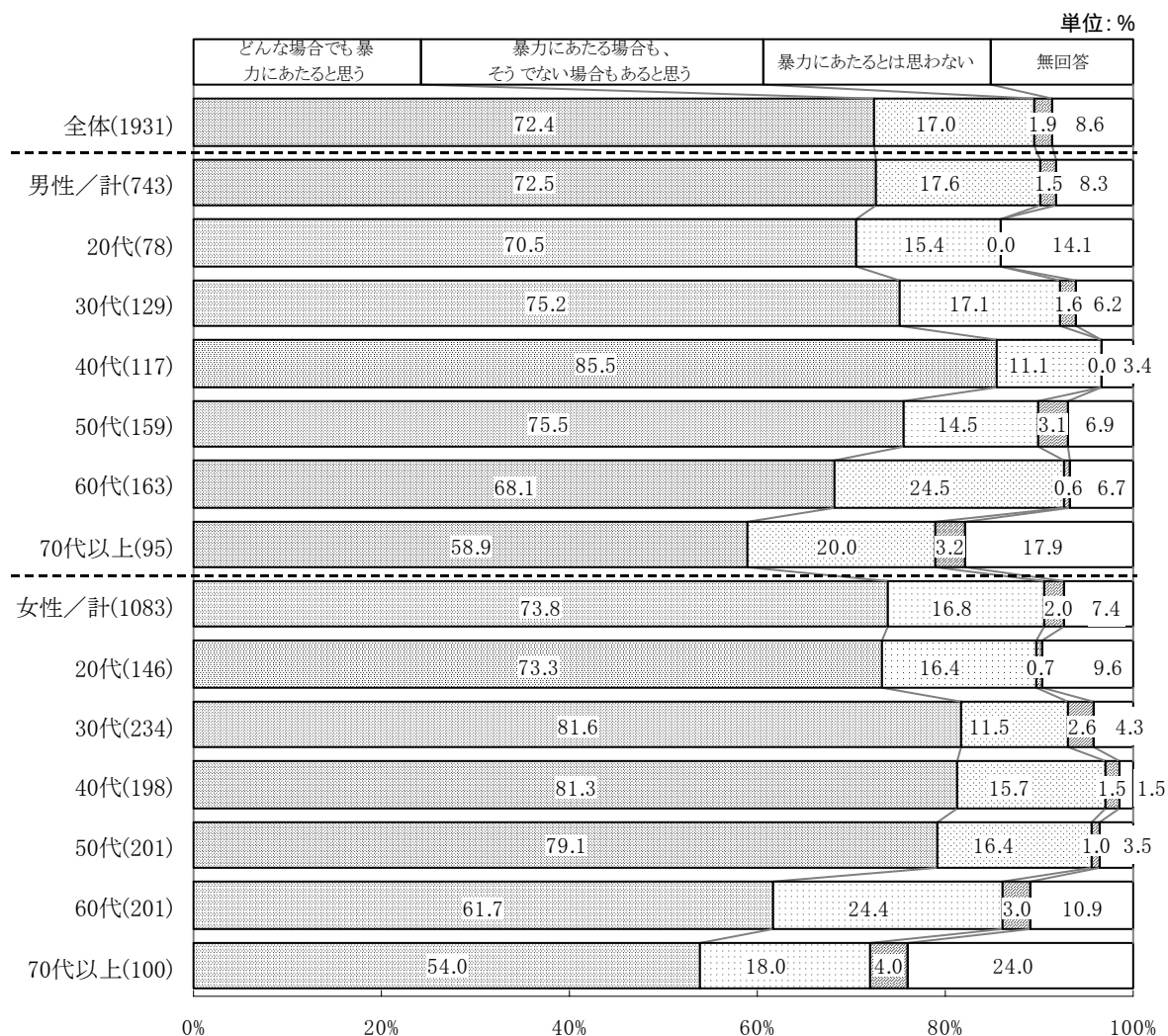


カ．暴力として認識される行為「いやがっているのに性的な行為を強要する」

「いやがっているのに性的な行為を強要する」ことを、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人は、男性の40代と女性の30代～50代では80%前後となっています。

一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は、男女ともに60代では20%以上で、他の年代と比べて高い割合となっています（図表21-7）。

図表21-7 暴力として認識される行為「いやがっているのに性的な行為を強要する」



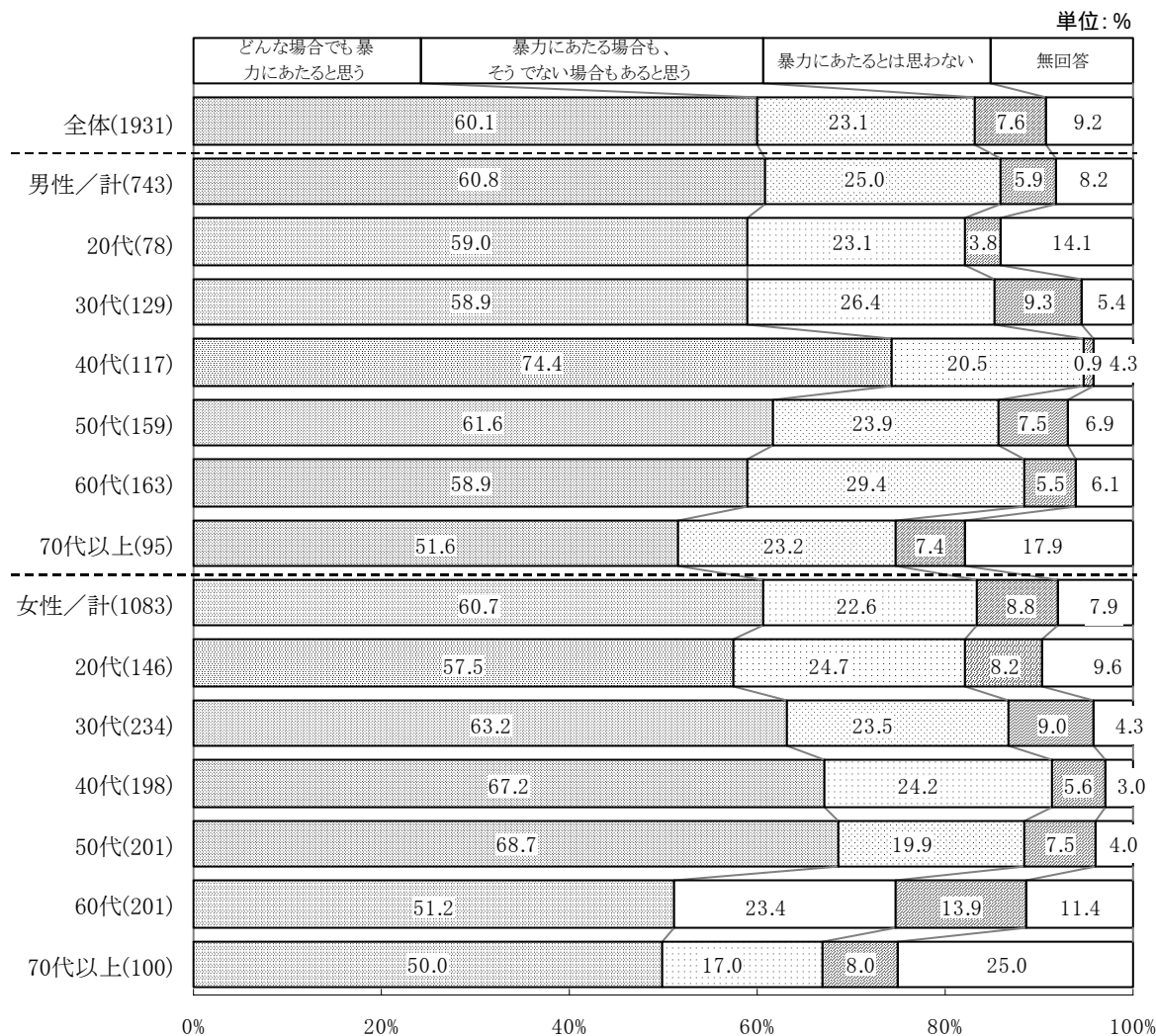
第3章 - 配偶者などからの暴力について

キ．暴力として認識される行為「見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる」

「見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる」ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、男性の40代で70%以上、女性の30代～50代で60%以上となっています。

一方、女性の60代では、「暴力にあたるとは思わない」が10%を超えています（図表21-8）。

図表21-8 暴力として認識される行為「見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる」



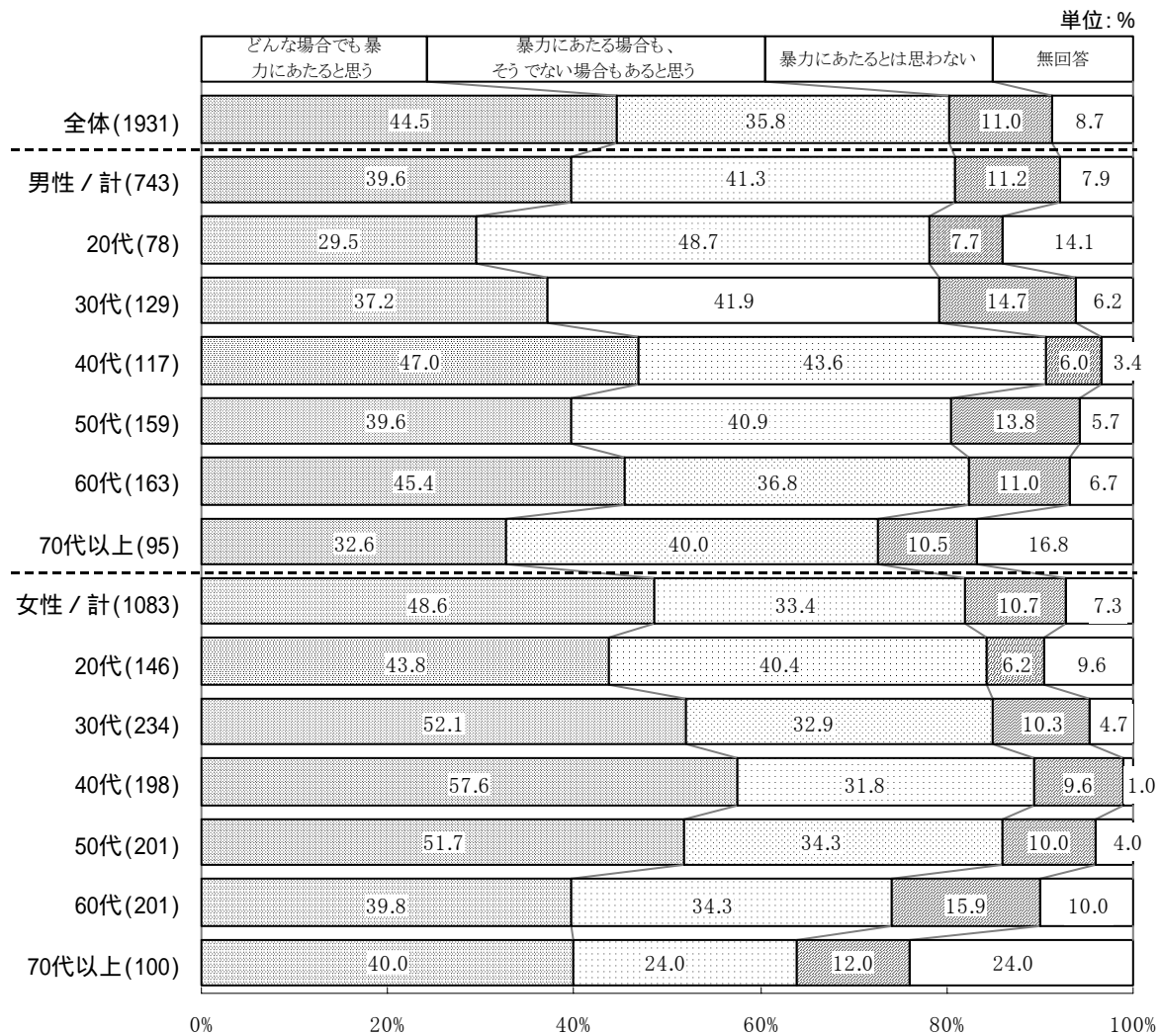


ク．暴力として認識される行為「何を言っても長時間無視し続ける」

「何を言っても長時間無視し続ける」ことについては、男女ともに10%以上が「暴力にあたると思わない」としており、暴力としての認知度が低い傾向がみられます。

また、男性の50代と女性の20代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」(男性50代39.6%、女性20代43.8%)と、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(男性50代40.9%、女性20代40.4%)が、ほぼ同じ割合となっています(図表21-9)。

図表21-9 暴力として認識される行為「何を言っても長時間無視し続ける」

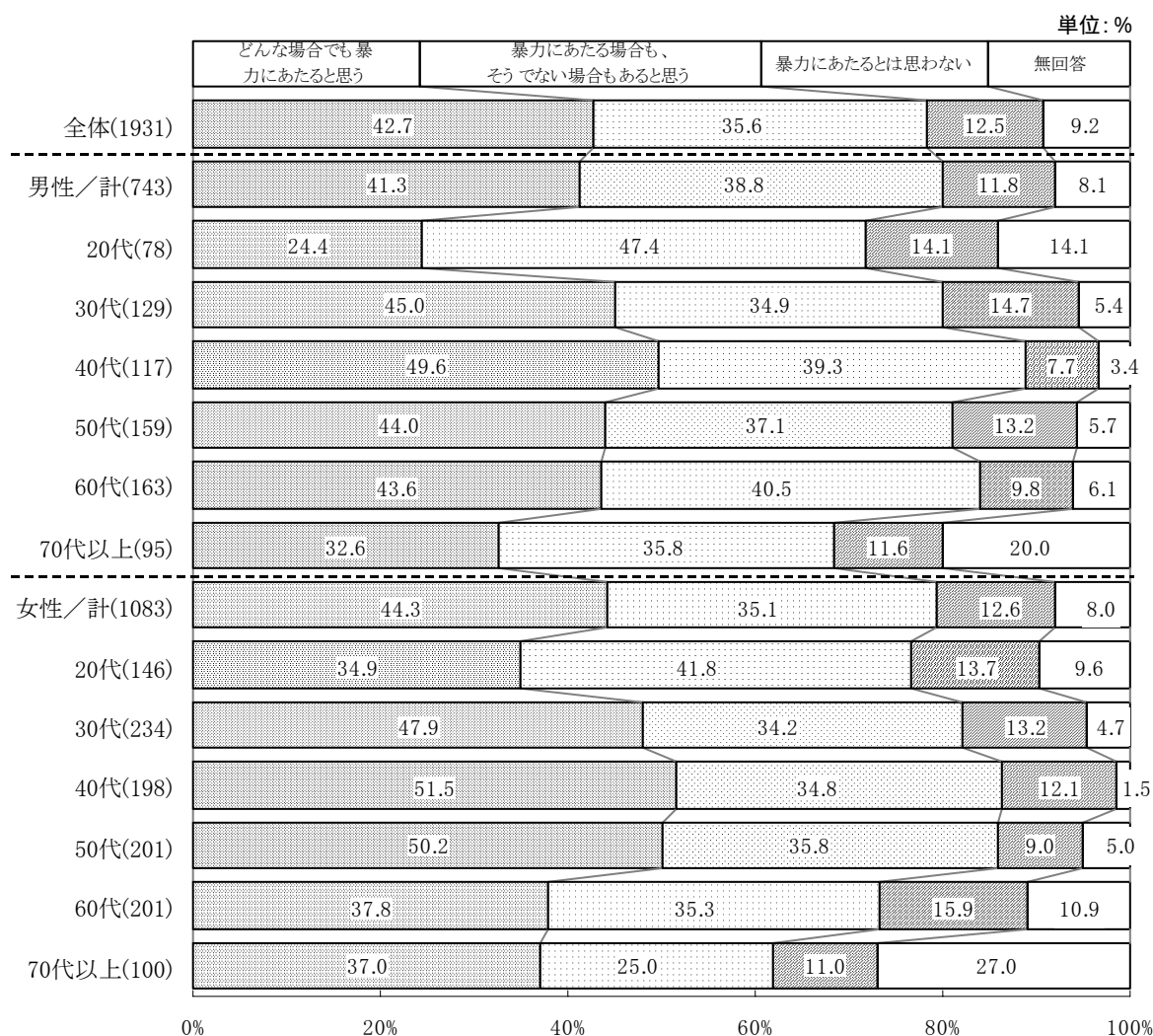


ケ．暴力として認識される行為「交友関係や電話を細かく監視する」

「交友関係や電話を細かく監視する」ことについては、男女ともに10%以上が「暴力にあたると思わない」としており、暴力としての認知度が低い傾向がみられます。

また、男女ともに20代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(男性47.4%、女性41.8%)が「どんな場合でも暴力にあたると思う」(男性24.4%、女性34.9%)を上回っています。また、男性60代・70代以上と、女性60代では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」がほぼ同じ割合となっています(図表21-10)。

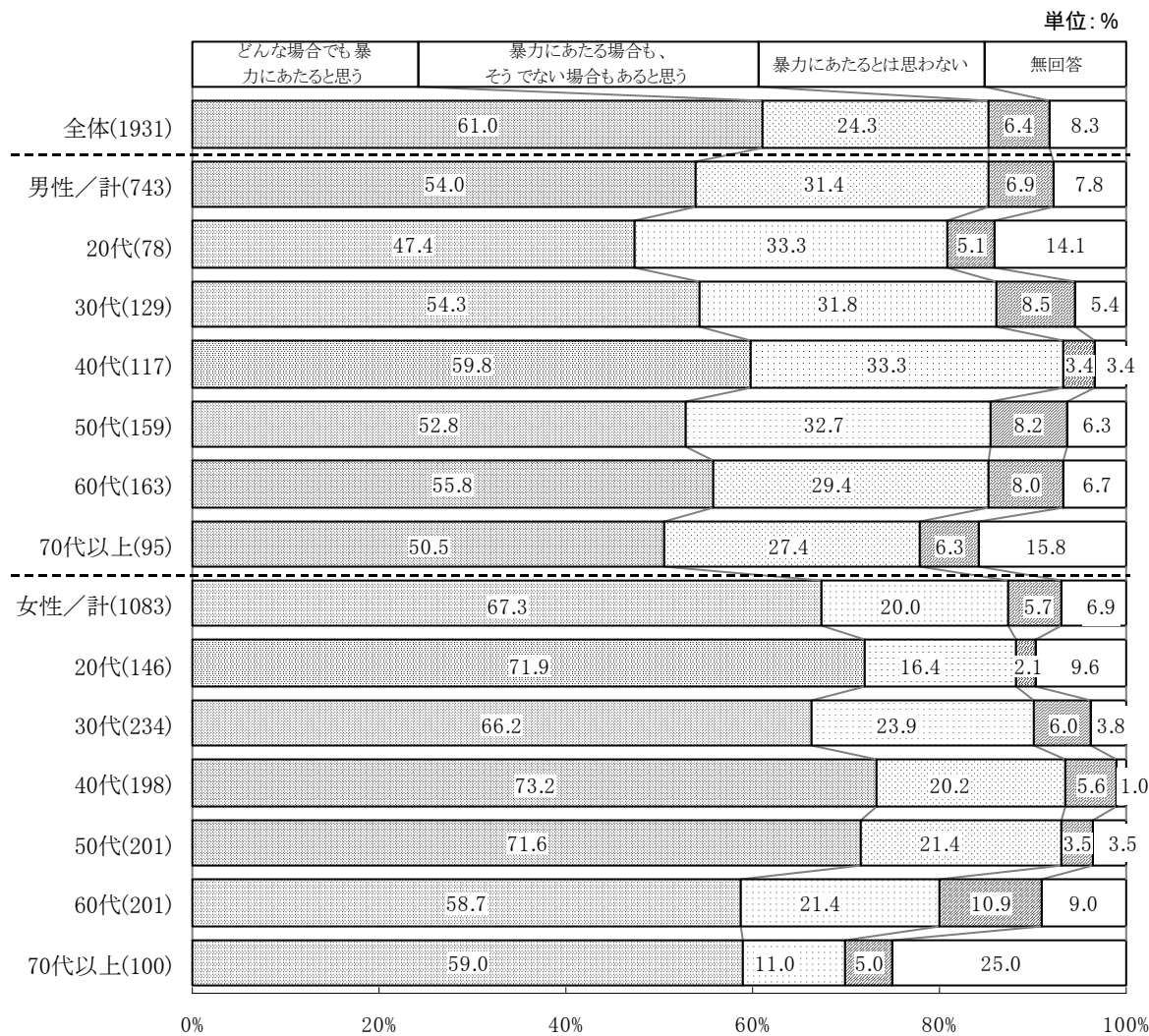
図表21-10 暴力として認識される行為「交友関係や電話を細かく監視する」



コ.暴力として認識される行為「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言う」

「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言うことが、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という割合は、女性20代・40代・50代で70%以上となっています。一方、男性20代では47.4%で他の性・年代よりも少なくなっています(図表21-11)。

図表21-11 暴力として認識される行為「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言う」

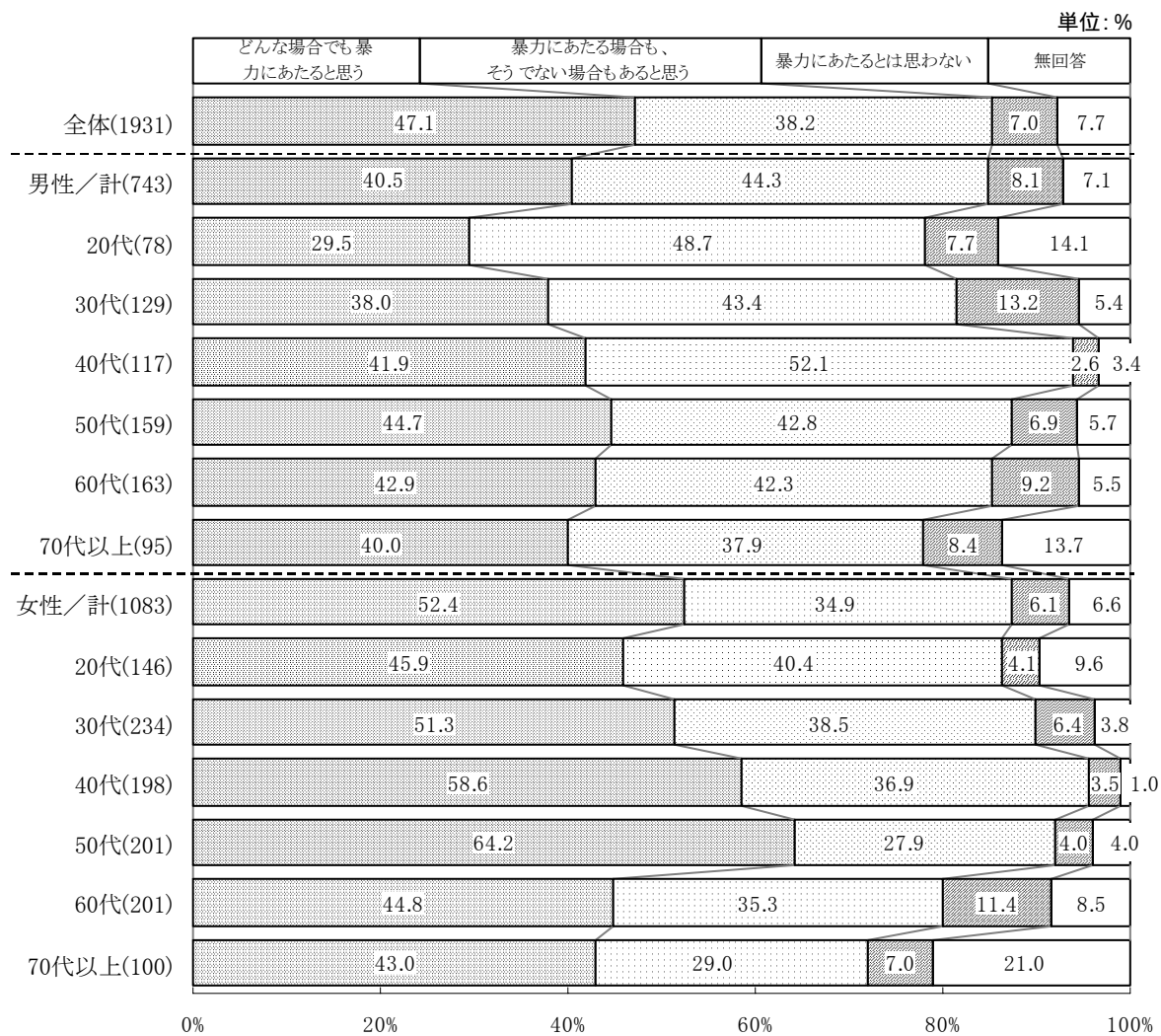


第3章 - 配偶者などからの暴力について

サ．暴力として認識される行為「大声でどなる」

「大声でどなる」ことは、女性いずれの年代でも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合よりも多くなっています。一方、男性 20代～40代は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」割合が上回っています(図表 21 - 12)。

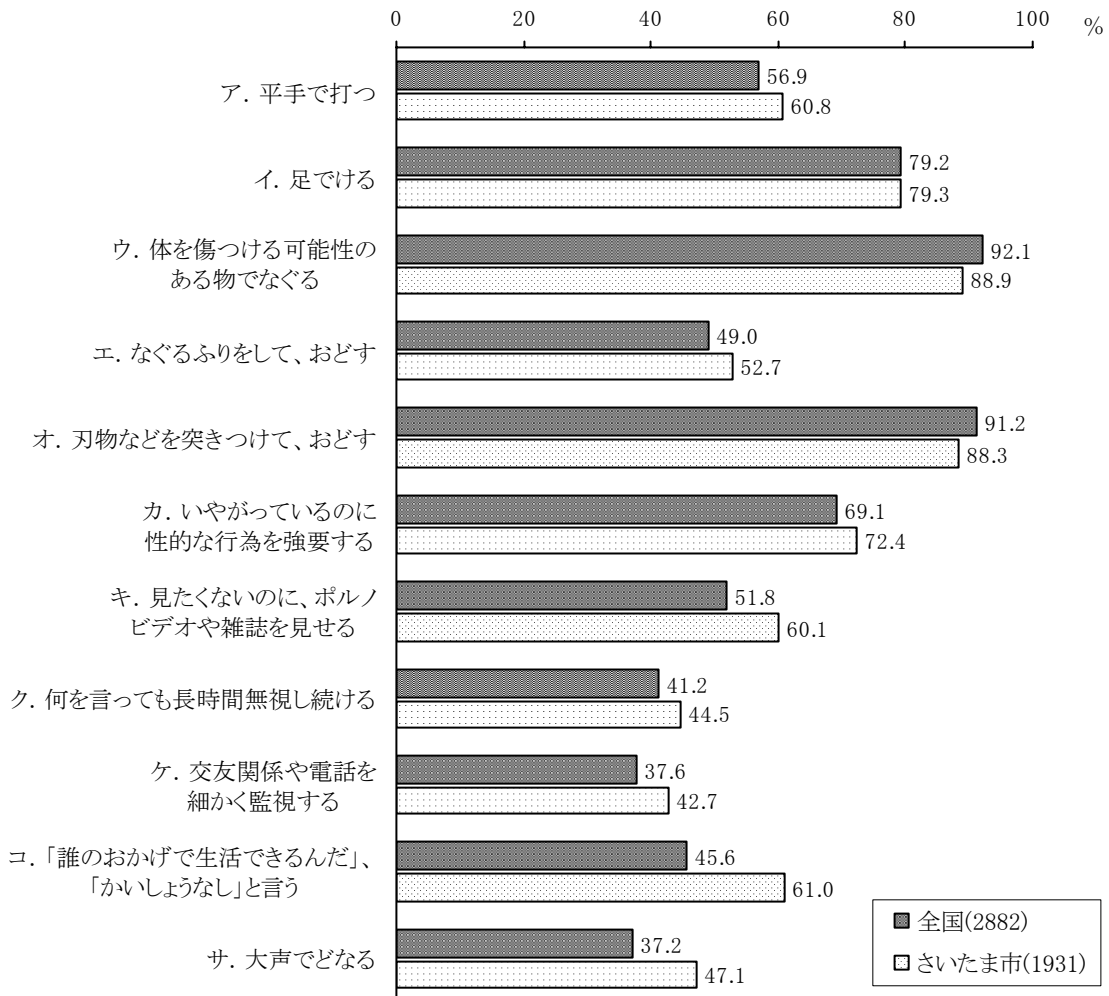
図表 21 - 12 暴力として認識される行為「大声でどなる」



< 全国調査との比較 >

全国調査（H18.4）と比べて、いずれの項目についても、「どんな場合も暴力にあたると思う」とする割合が高い傾向がみられます。特に、「見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる」、「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」と言う、「大声でどなる」などについては、全国に比べ「どんな場合も暴力にあたると思う」とする割合が10ポイント程度上回っています（図表21 - 13）。

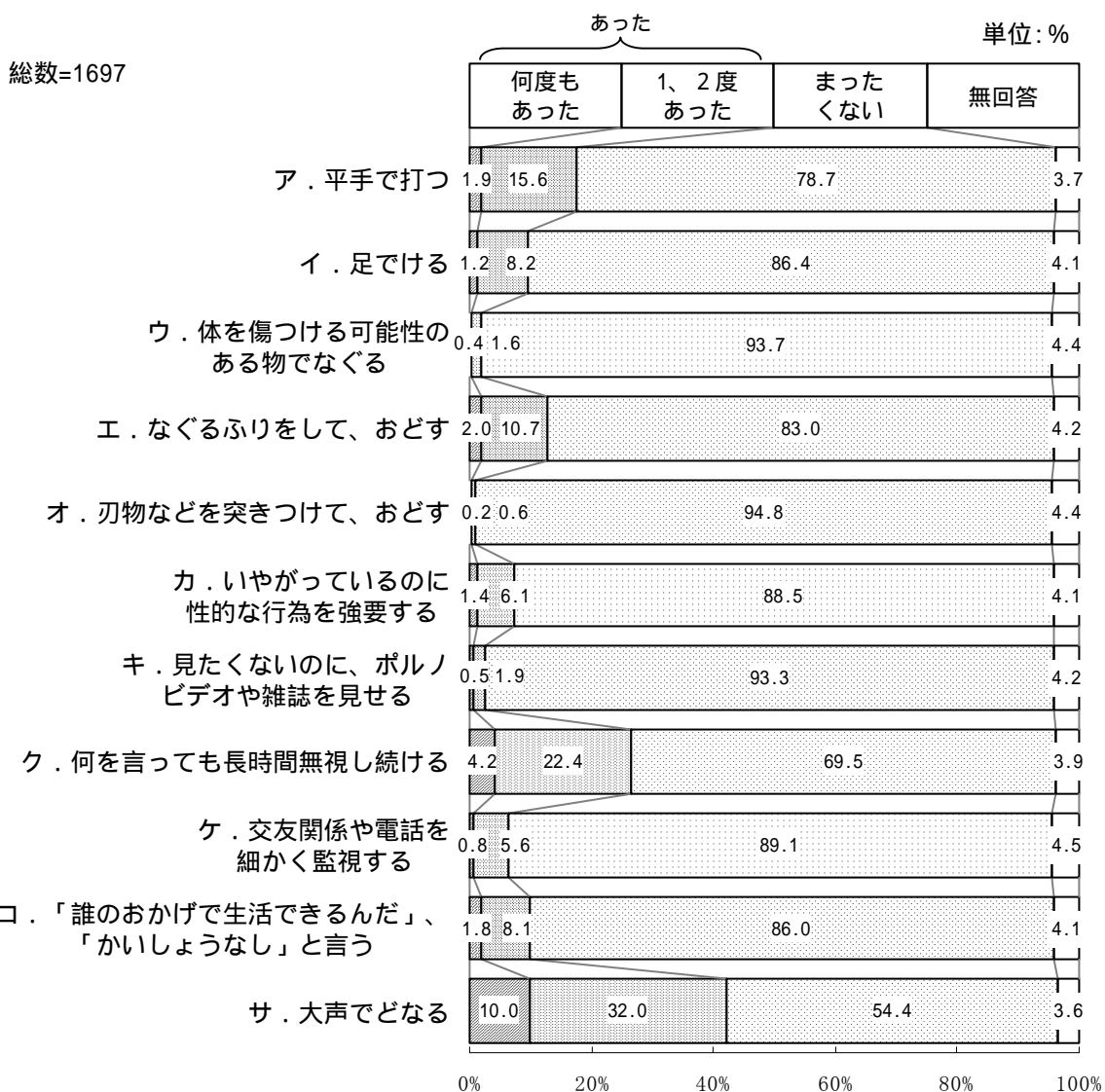
図表 21 - 13 暴力として認識される行為「どんな場合でも暴力にあたると思う」（全国調査との比較）



問18 配偶者等への加害行為

問18 あなたは、これまでに、あなたの配偶者などに対して次のような行為をしたことがありますか。  
 (それぞれについて、あてはまるものに を1つ)

図表 22 - 1 - 1 配偶者等への加害行為



全体傾向

配偶者などに対して 11 項目の行為をしたことが「あった」(「何度もあった」と「1、2度あった」の合計)は、「大声でどなる」が 42.0%で他の項目に比べ多くなっています。ほかには、「何を言っても長時間無視し続ける」(26.6%)、「平手で打つ」(17.5%) 経験が 20%前後を占めています(図表 22 - 1 - 1)。

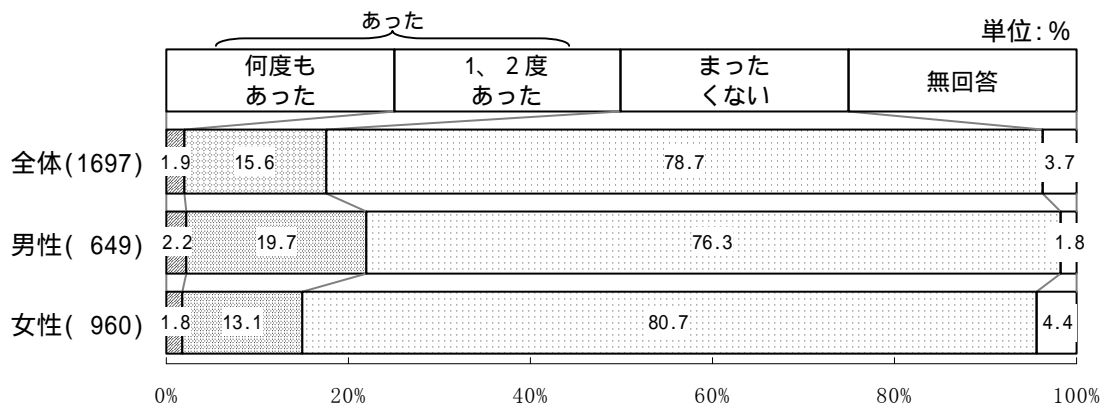
男女別の傾向

配偶者などに対する加害経験は、男性に多くみられます。

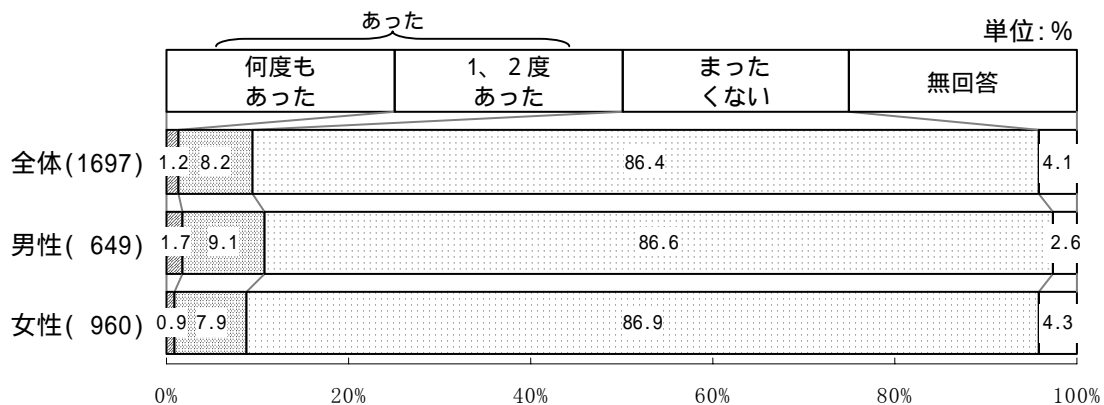
「大声でどなる」ことが、「あった」では、男性が女性を 18 ポイント上回っており(図表 22 - 1 - 12) このほかに「なぐるふりをして、おどす」では 14 ポイント(図表 22 - 1 - 5)、「何を言っても長時間無視し続ける」では 10 ポイントと(図表 22 - 1 - 9) 男性の加害経験が上回っています。

「交友関係や電話を細かく監視する」(男性 5.2%、女性 7.4%) については、わずかに女性が上回っています(図表 22 - 1 - 10)。

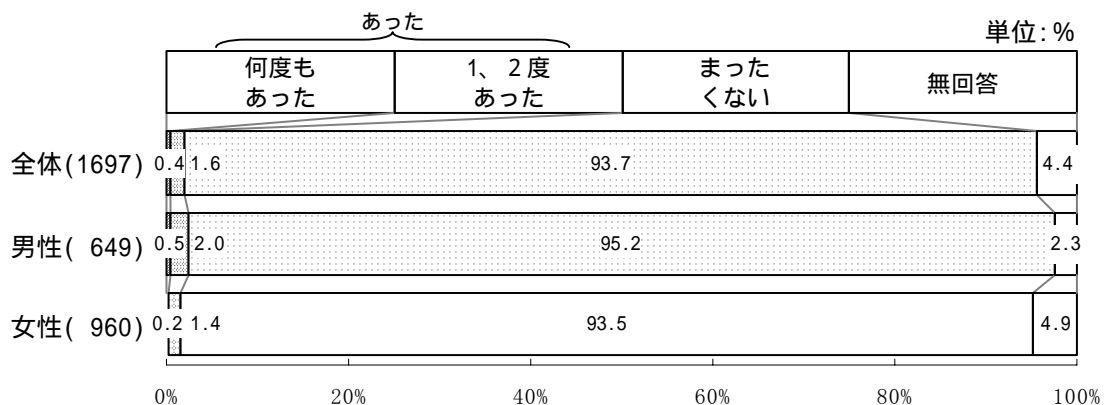
図表 22 - 1 - 2 配偶者等への加害行為「平手で打つ」



図表 22 - 1 - 3 配偶者等への加害行為「足でける」

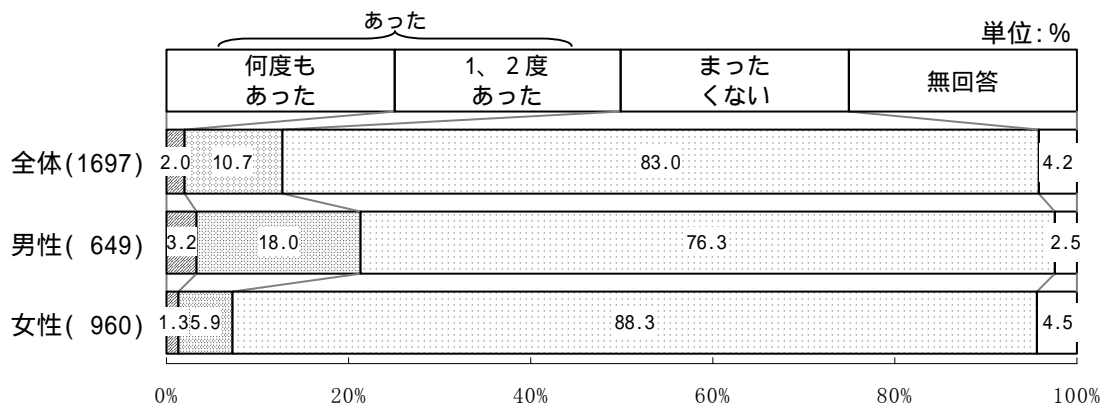


図表 22 - 1 - 4 配偶者等への加害行為「体を傷つける可能性のある物でなぐる」

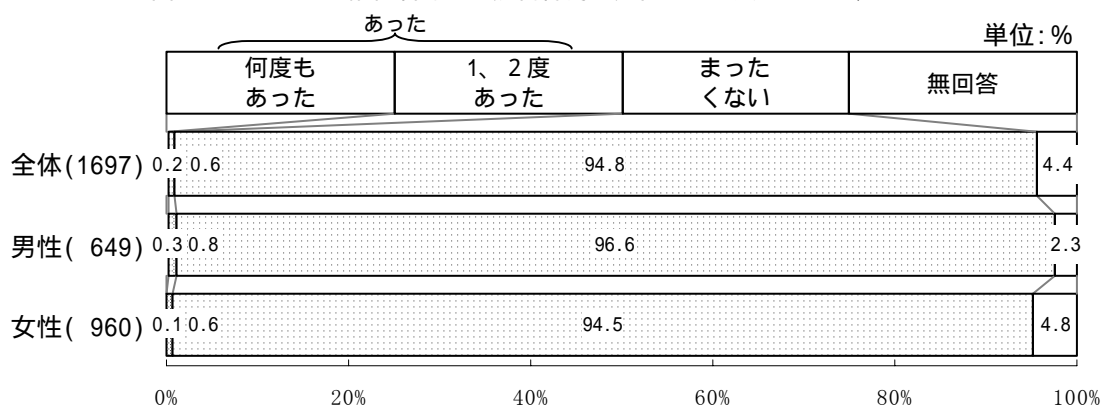


第3章 - 配偶者などからの暴力について

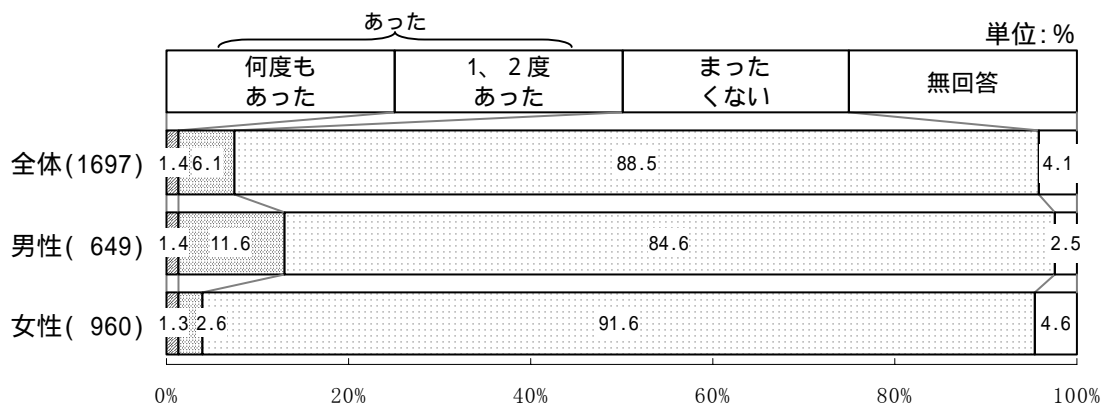
図表 22 - 1 - 5 配偶者等への加害行為「なぐるふりをして、おどす」



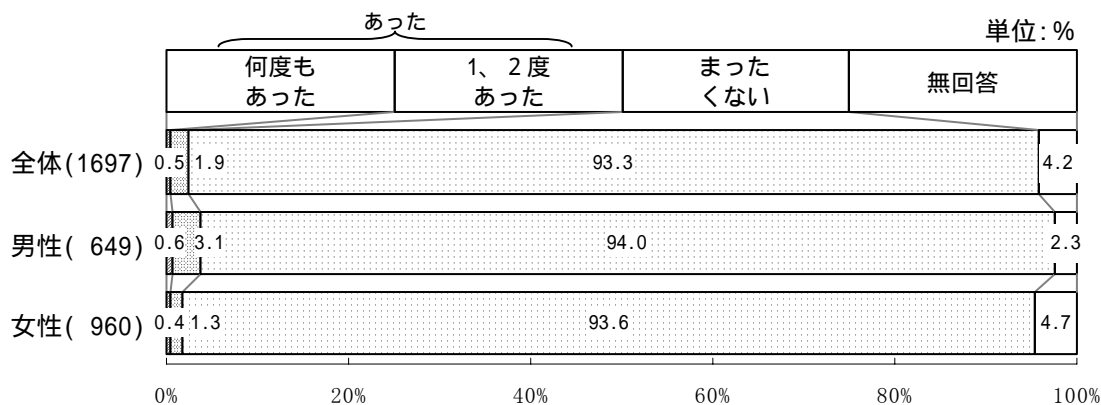
図表 22 - 1 - 6 配偶者等への加害行為「刃物などを突きつけて、おどす」



図表 22 - 1 - 7 配偶者等への加害行為「いやがっているのに性的な行為を強要する」

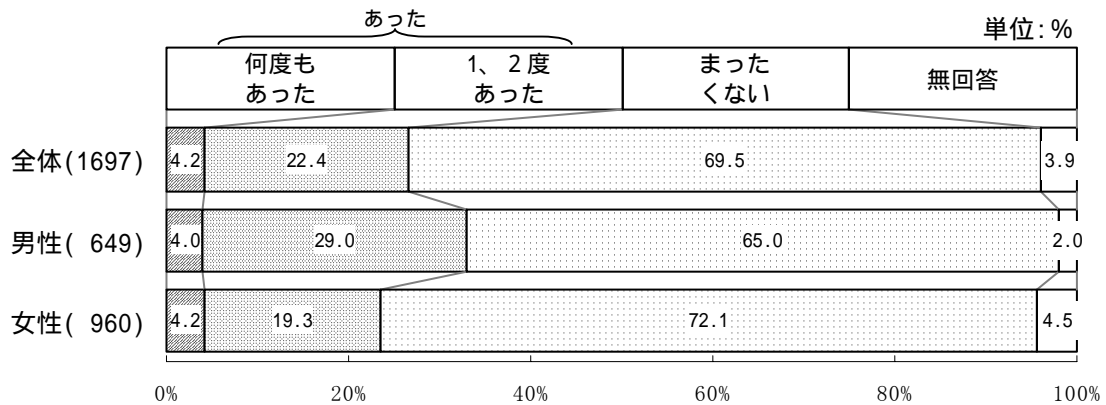


図表 22 - 1 - 8 配偶者等への加害行為「見たくないのに、ポルノビデオや雑誌を見せる」

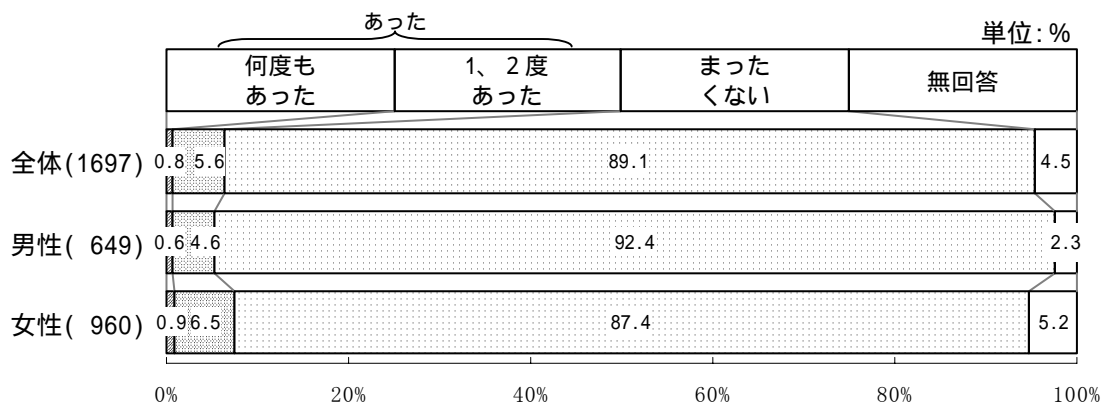




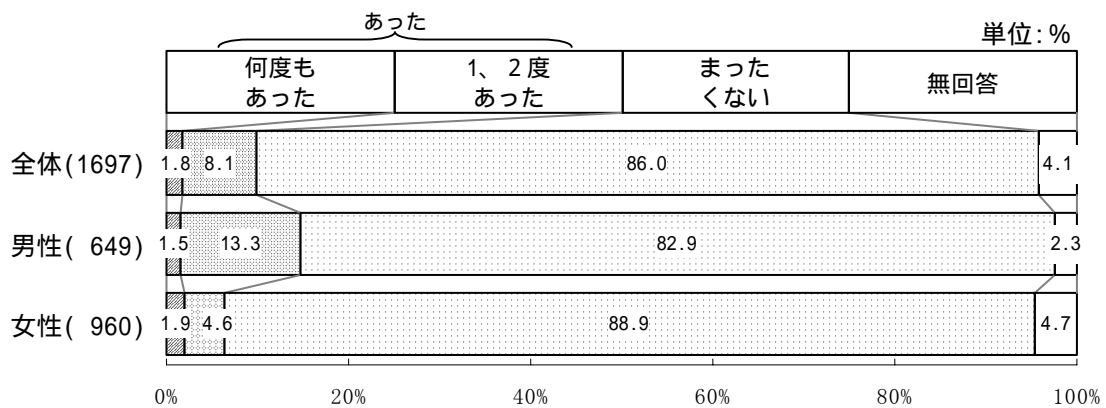
図表 22 - 1 - 9 配偶者等への加害行為「何を言っても長時間無視し続ける」



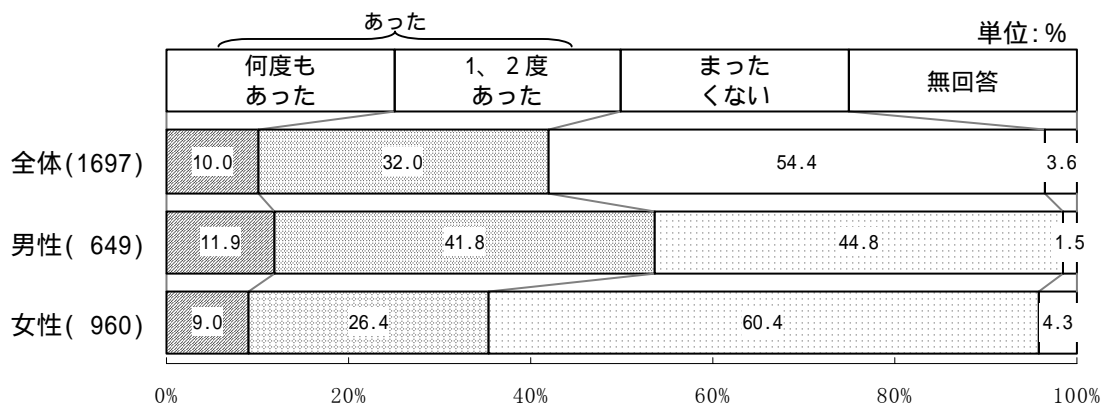
図表 22 - 1 - 10 配偶者等への加害行為「交友関係や電話を細かく監視する」



図表 22 - 1 - 11 配偶者等への加害行為「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」と言う」



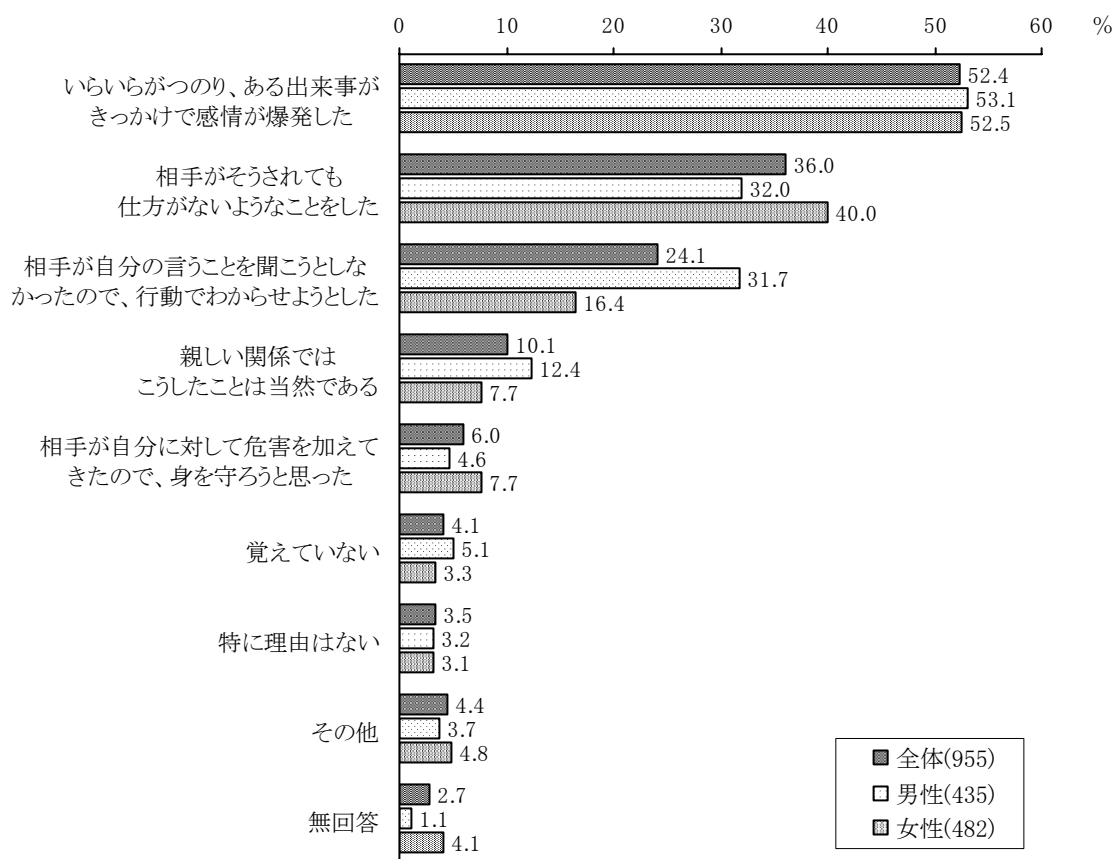
図表 22 - 1 - 12 配偶者等への加害行為「大声でどなる」



問18 - 1 加害行為に至ったきっかけ

問18 - 1 【問18のうち、1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」とお答えの方にうかがいます。】 あなたが問18であげたような行為をするに至ったきっかけは何ですか。(はいくつでも)

図表 22 - 2 - 1 加害行為に至ったきっかけ



全体傾向

最も多かった回答は、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が 52.4%となっています。次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」(36.0%)、「相手が自分の言うことを聞こうとしなかったので、行動でわからせようとした」(24.1%)が挙げられています(図表 22 - 2 - 1)。

男女別の傾向

加害行為の理由として、男性が女性を上回っているのは、「相手が自分の言うことを聞こうとしなかったので、行動でわからせようとした」(男性 31.7%、女性 16.4%)で、男性が 15 ポイント上回っています。また、「親しい関係ではこうしたことは当然である」(男性 12.4%、女性 7.7%)でも、男性が 5 ポイント程度上回っています。

女性が男性を上回っているのは、「相手がそうされても仕方がないようなことをした」(男性 32.0%、女性 40.0%)で、女性が 8 ポイント上回っています(図表 22 - 2 - 1)。

男女別の年代別の傾向

加害理由を年代別にみると、「相手が自分の言うことを聞こうとしなかったので、行動でわからせようとした」は、年代が上がるにつれて増加しているのに対し、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は年代が上がるごとに減少する傾向がみられます。

特に、女性の20代、30代では、「相手がそうされても仕方がないようなことをした」ことを挙げる割合が半数を占めています（図表22 - 2 - 2）。

図表22 - 2 - 2 加害行為に至ったきっかけ（男女別の年代別）

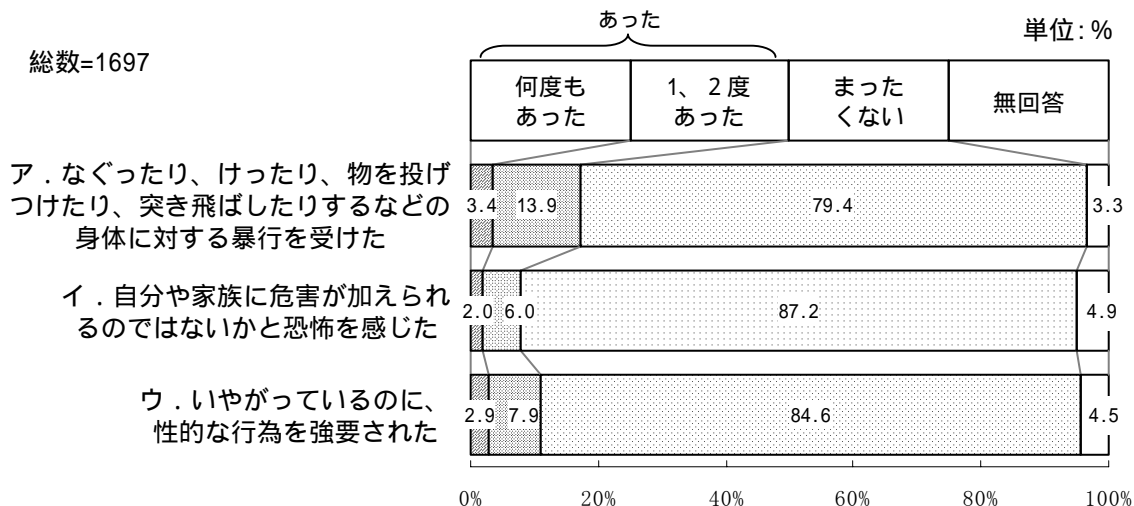
単位：%

	いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した	相手がそうされても仕方がないようなことをした	相手が自分の言うことを聞こうとしなかったので、行動でわからせようとした	親しい関係ではこうしたことは当然である	相手が自分に対して危害を加えてきたので、身を守ろうと思った	覚えていない	特に理由はない	その他	無回答
全体 (955)	52.4	36.0	24.1	10.1	6.0	4.1	3.5	4.4	2.7
男性計 (435)	53.1	32.0	31.7	12.4	4.6	5.1	3.2	3.7	1.1
男性 / 20代 (21)	57.1	23.8	9.5	-	-	14.3	4.8	9.5	-
30代 (54)	61.1	37.0	24.1	5.6	9.3	5.6	1.9	5.6	-
40代 (66)	59.1	31.8	24.2	6.1	7.6	4.5	1.5	4.5	-
50代 (108)	51.9	28.7	34.3	11.1	5.6	5.6	5.6	2.8	0.9
60代 (121)	51.2	33.9	37.2	18.2	2.5	4.1	4.1	2.5	0.8
70代以上 (64)	43.8	32.8	39.1	20.3	1.6	3.1	-	3.1	4.7
女性計 (482)	52.5	40.0	16.4	7.7	7.7	3.3	3.1	4.8	4.1
女性 / 20代 (53)	60.4	50.9	17.0	5.7	7.5	3.8	-	3.8	-
30代 (95)	64.2	50.5	9.5	8.4	10.5	1.1	1.1	9.5	-
40代 (104)	51.0	32.7	17.3	8.7	8.7	1.0	1.9	5.8	3.8
50代 (94)	48.9	38.3	17.0	3.2	4.3	3.2	6.4	5.3	5.3
60代 (95)	44.2	41.1	13.7	13.7	7.4	8.4	4.2	1.1	7.4
70代以上 (40)	47.5	20.0	35.0	2.5	7.5	2.5	5.0	-	10.0

問19 配偶者等からの被害経験

問19 あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。  
 (それぞれについて、あてはまるものに を1つ)

図表 23 - 1 - 1 配偶者等からの被害経験



全体傾向

配偶者などからの3つの行為の被害経験については、「まったくくない」という回答が、多数を占めています。

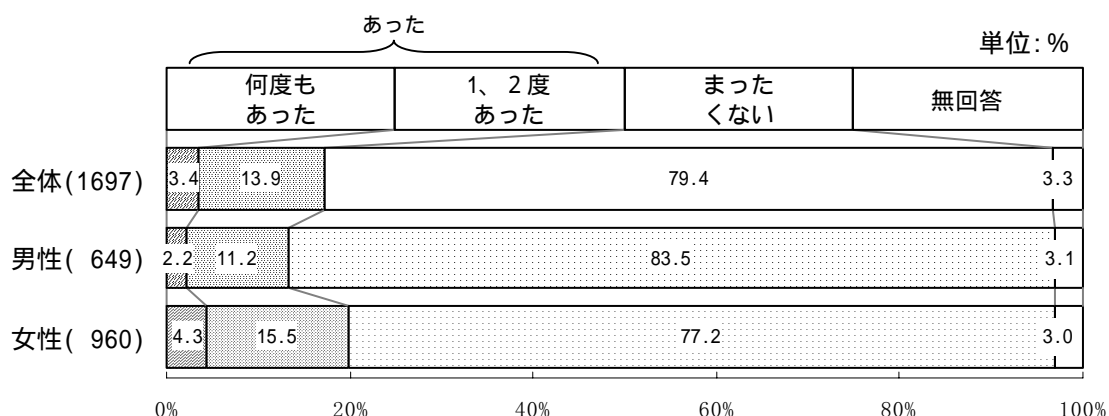
一方で、「なぐったり、けつたり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことについて、「あつた」(「何どもあつた」と「1、2度あつた」の合計)は17.3%となっています(図表23-1-1)。

ア．身体に対する暴行を受けた「身体的暴力」

男女別にみると、身体に対する暴行を受ける経験が「あつた」という女性は19.8%で、男性13.4%を6ポイント上回っています。

女性の約5人に1人が身体に対する暴行を受けたことがあると回答しています(図表23-1-2)。

図表 23 - 1 - 2 配偶者等からの被害経験「身体的暴力」

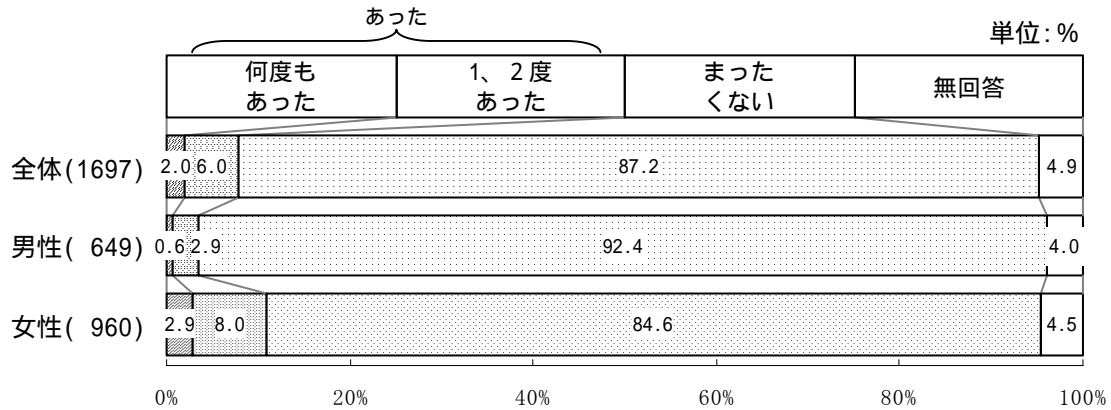


イ．自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた「精神的暴力」

男女別にみると、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた経験が「あった」という女性 10.9%は、男性 3.5%を 7 ポイント上回っています。

女性の約 9 人に 1 人が、自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じる経験をしたことがあると答えています（図表 23 - 1 - 3）。

図表23 - 1 - 3 配偶者等からの被害経験「精神的暴力」

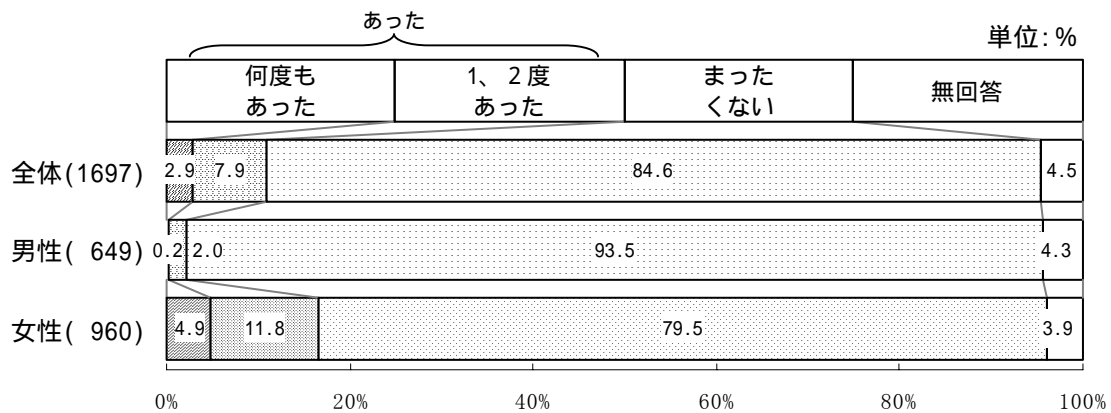


ウ．いやがっているのに、性的な行為を強要された「性的暴力」

男女別にみると、いやがっているのに、性的な行為を強要された経験が「あった」という女性 16.7%は、男性 2.2%を 15 ポイント上回っています。

女性の約 6 人に 1 人がいやがっているのに、性的な行為を強要された経験があると答えています（図表 23 - 1 - 4）。

図表23 - 1 - 4 配偶者等からの被害経験「性的暴力」

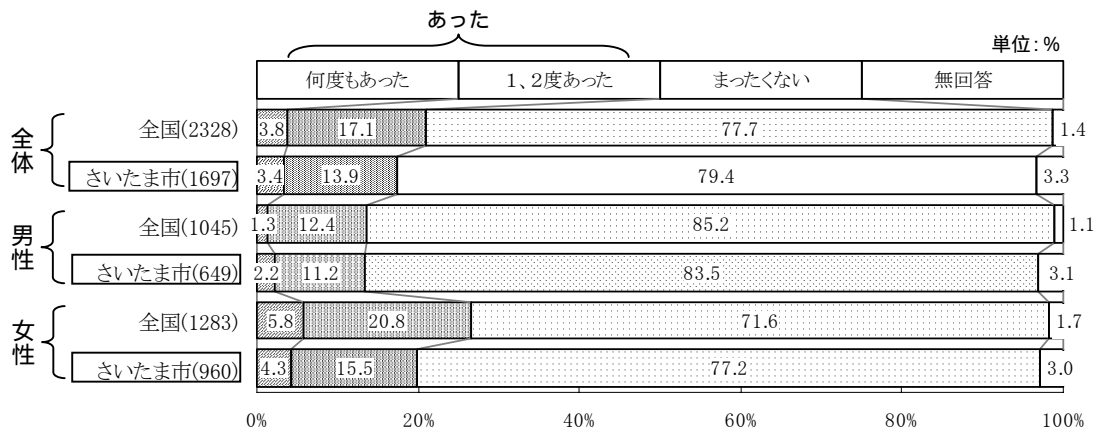


< 全国調査との比較 >

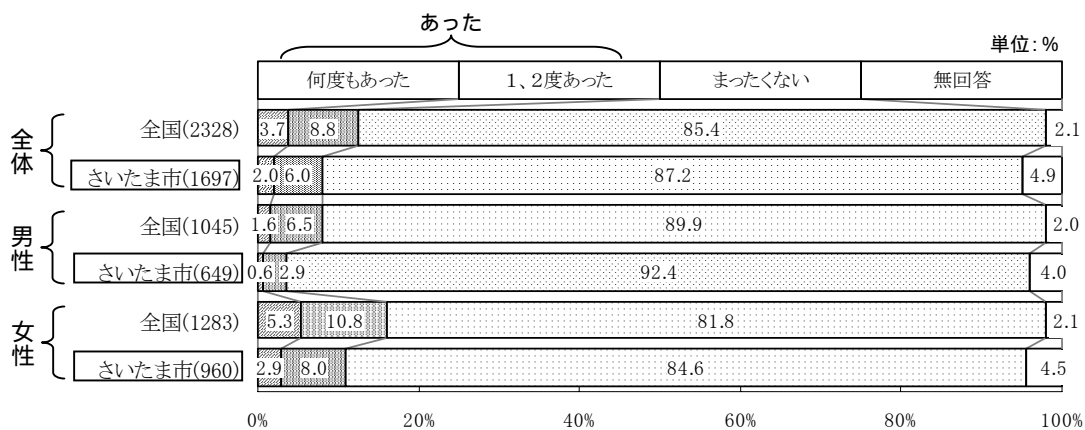
全国調査（H18.4）と比べると、ほぼ同様の傾向がみられます（図表23-1-5）。

図表 23 - 1 - 5 配偶者等からの被害経験（全国調査との比較）

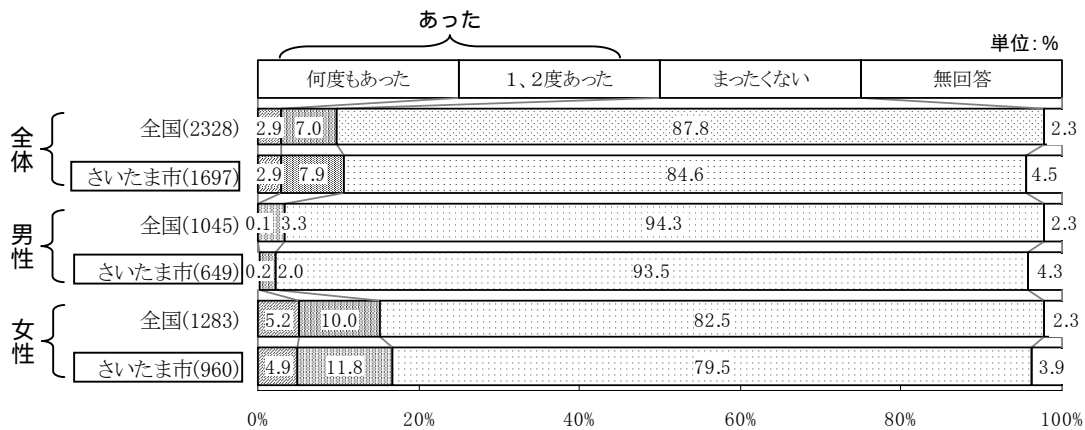
ア．なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



イ．自分や家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じた



ウ．いやがっているのに性的な行為を強要された

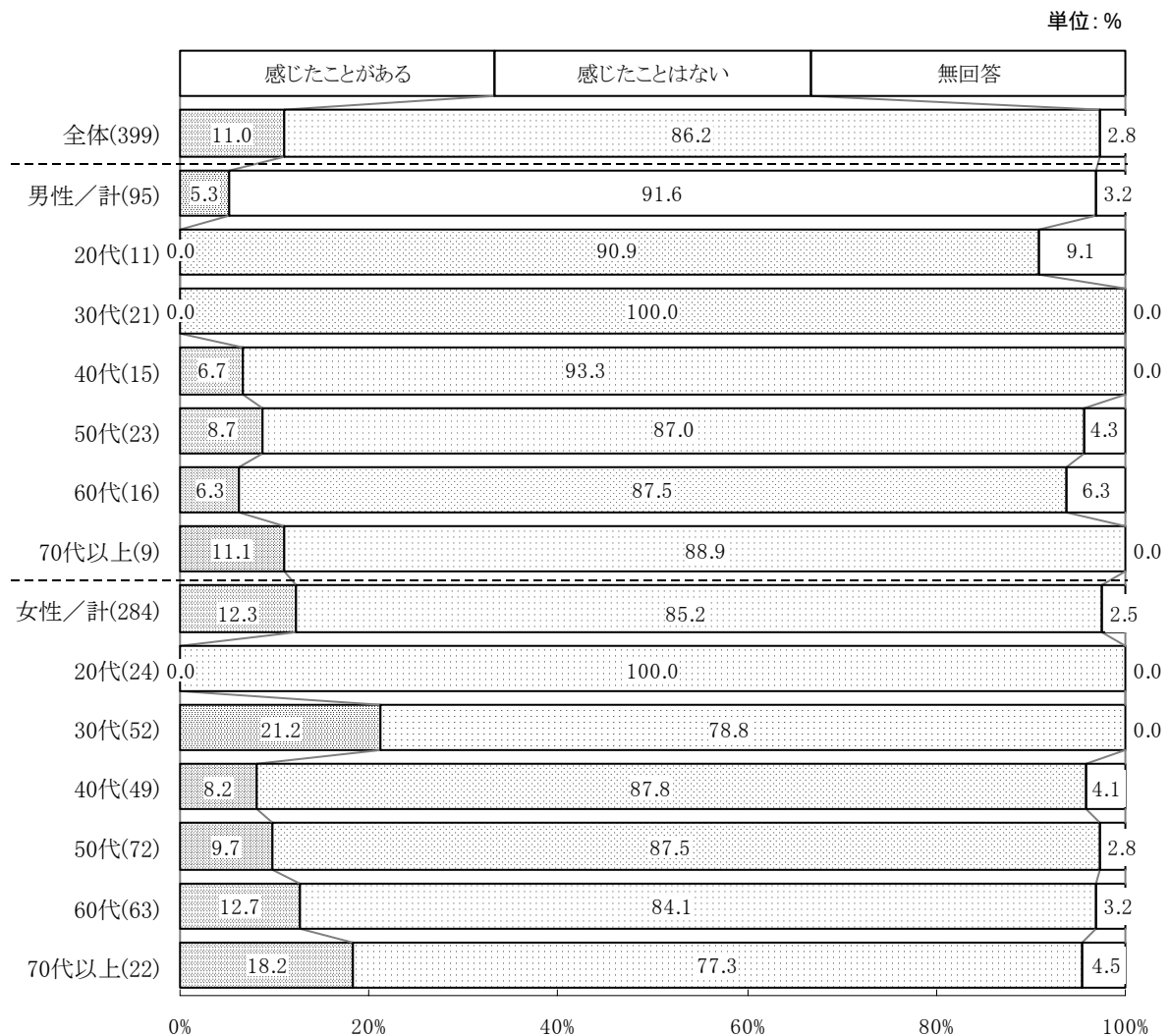


問19 - 1 命の危険を感じたこと

問19 - 1 【問19のうち、1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」とお答えの方にうかがいます。】

あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。( は1つ)

図表 23 - 2 命の危険を感じたこと



全体傾向

命の危険を「感じたことはない」人が多数を占めますが、「感じたことがある」人は11.0%います(図表 23 - 2 )。

男女別の傾向

命の危険を「感じたことがある」人は、男性5.3%、女性12.3%と、女性が男性を7ポイント上回っています。配偶者から身体的または精神的暴力など何らかの被害にあった女性のうち、約8人に1人が命の危険を「感じたことがある」と答えています(図表 23 - 2 )。

男女別の年代別の傾向

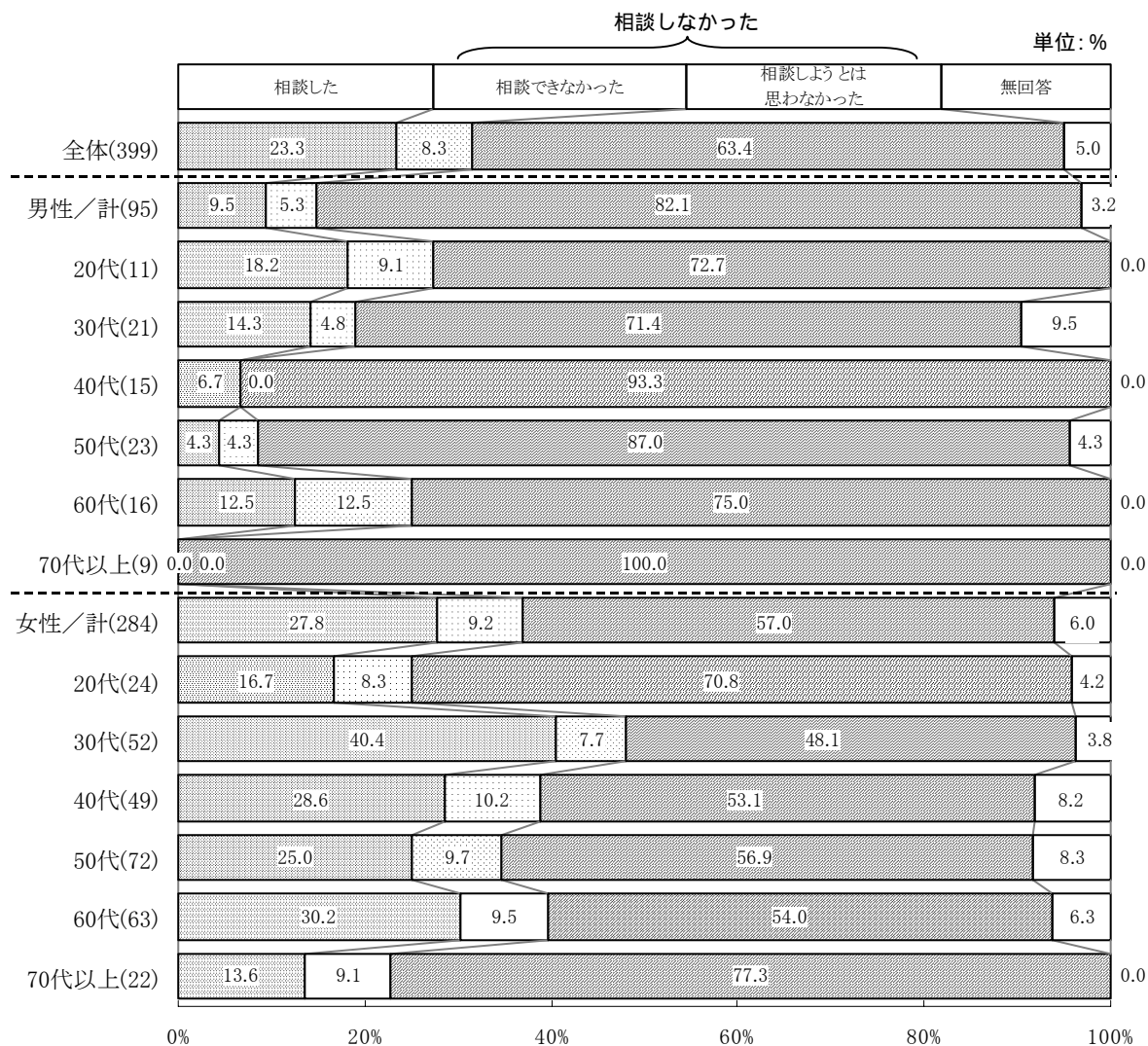
特に、女性の30代、70代以上では20%前後が命の危険を「感じたことがある」と答えています(図表 23 - 2 )。

問19 - 2 暴力についての相談経験

問19 - 2 【問19のうち、1つでも「何度もあった」または「1、2度あった」とお答えの方にうかがいます。】

あなたはこれまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。( は1つ)

図表 23 - 3 暴力についての相談経験



全体傾向

配偶者から受けた行為について、「相談した」人は 23.3%であり、「相談しなかった(「相談できなかった」と「相談しようと思わなかった」の合計)」は、71.7%を占めています(図表 23 - 3)。

男女別の傾向

女性についてみると、「相談した」女性は 27.8%であり、「相談しなかった」は 66.2%を占めています(図表 23 - 3)。

男女別の年代別の傾向

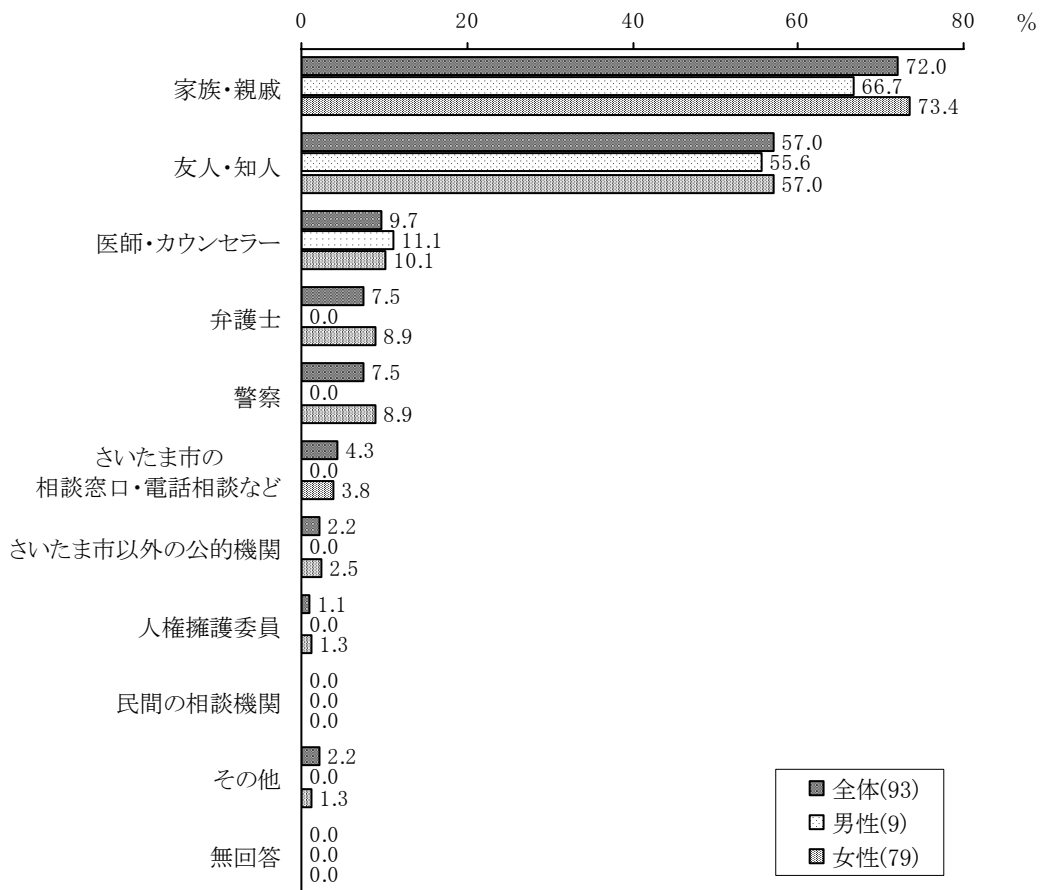
いずれの年代の女性も、60%以上が「相談しなかった」と答えています(図表 23 - 3)。



問19 - 3 相談した相手（場所）

問19 - 3 【問19 - 2で「1 相談した」とお答えの方にはうかがいます。  
あなたが相談した人（場所）を教えてください。（はいくつでも）

図表 23 - 4 - 1 相談した相手（場所）



全体傾向

配偶者から受けた行為について「相談した」と答えた人のうち、相談した人や場所で最も多かったのは「家族・親戚」(72.0%)で、次いで「友人・知人」(57.0%)など、身近な人への相談が多くなっています。

続いて、「医師・カウンセラー」(9.7%)、「警察」(7.5%)、「弁護士」(7.5%)が挙げられており、「さいたま市の相談窓口・電話相談など」の利用については、4.3%になっています(図表 23 - 4 - 1)。

男女別の傾向

男性の回答数が少ないものの、男女ともに「家族・親戚」、「友人・知人」への相談が多くなっており、特に「家族・親戚」への相談は女性が男性を7ポイント上回っています(図表 23 - 4 - 1)。

第3章 - 配偶者などからの暴力について

男女別の年代別の傾向

女性についてみると、20代と40代では「友人・知人」への相談が最も多く、30代および50代以上では「家族・親戚」への相談が多い傾向がみられます（図表23-4-2）。

図表23-4-2 相談した相手（場所）／（男女別の年代別）

単位：％

	家族・親戚	友人・知人	医師・カウンセラー	弁護士	警察	話相談など	さいたま市の相談窓口・電	さいたま市以外の公的機関	人権擁護委員	民間の相談機関	その他	無回答
全体 (93)	72.0	57.0	9.7	7.5	7.5	4.3	2.2	1.1	-	2.2	-	
男性計 (9)	66.7	55.6	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性 / 20代 (2)	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
30代 (3)	66.7	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
40代 (1)	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50代 (1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60代 (2)	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
70代以上 (-)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
女性計 (79)	73.4	57.0	10.1	8.9	8.9	3.8	2.5	1.3	-	1.3	-	
女性 / 20代 (4)	50.0	75.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	
30代 (21)	76.2	66.7	19.0	19.0	9.5	4.8	4.8	4.8	-	-	-	
40代 (14)	50.0	64.3	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	
50代 (18)	77.8	44.4	11.1	-	5.6	11.1	-	-	-	5.6	-	
60代 (19)	84.2	57.9	10.5	10.5	5.3	-	5.3	-	-	-	-	
70代以上 (3)	100.0	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	

注) \* は、該当者無しを表す。

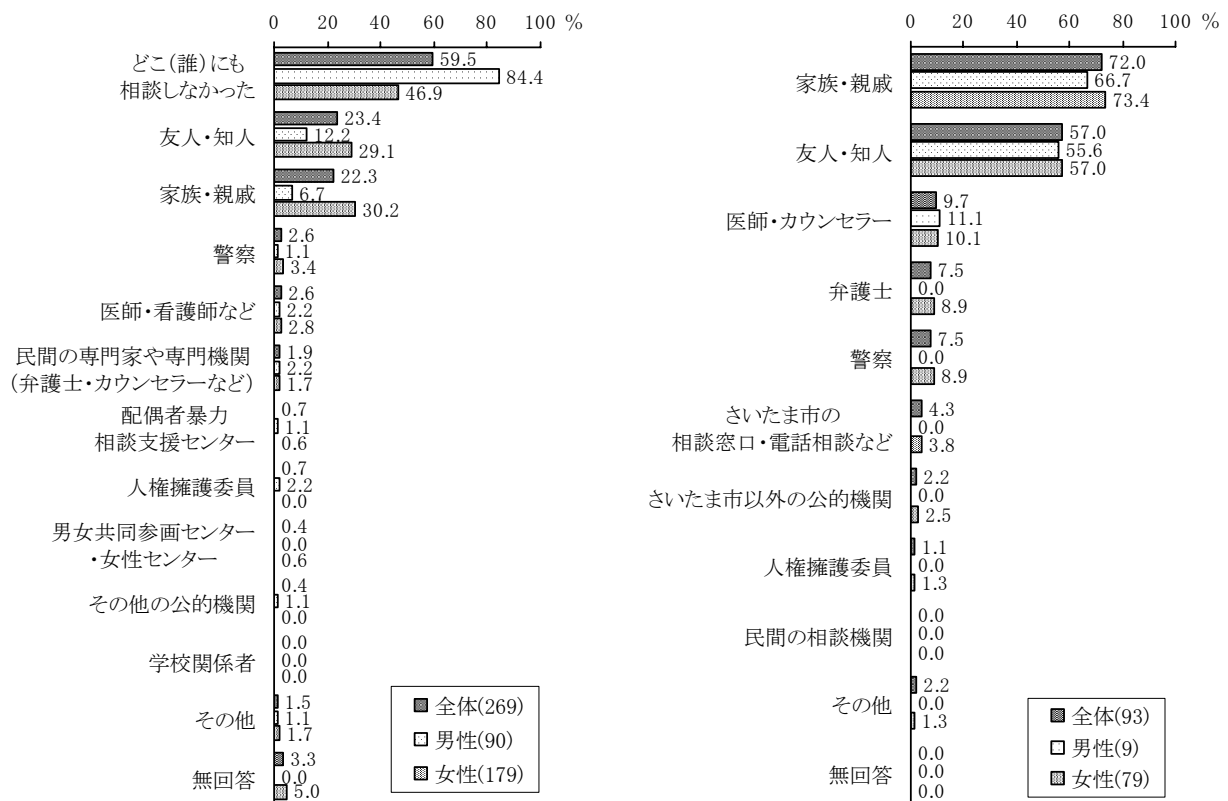
< 全国調査との比較 >

全国調査（H18.4）と比べると、「どこ（誰）にも相談しなかった」割合は全国 59.5%、さいたま市 71.7%（p92 全体傾向）で 12 ポイントさいたま市が上回っています。このうち女性についてみると、全国調査では「どこにも相談しなかった」という女性は 46.9%であるのに対し、さいたま市では 66.2%（p92 男女別の傾向）で「相談しなかった」という女性は 19 ポイント上回っています。全国では「友人・知人」、「家族・親戚」への相談が同程度となっており、さいたま市は「家族・親戚」への相談が多い傾向がみられます（図表 23 - 5）。

図表23 - 5 相談した相手（場所） / （全国調査との比較）

全国

さいたま市（再掲）

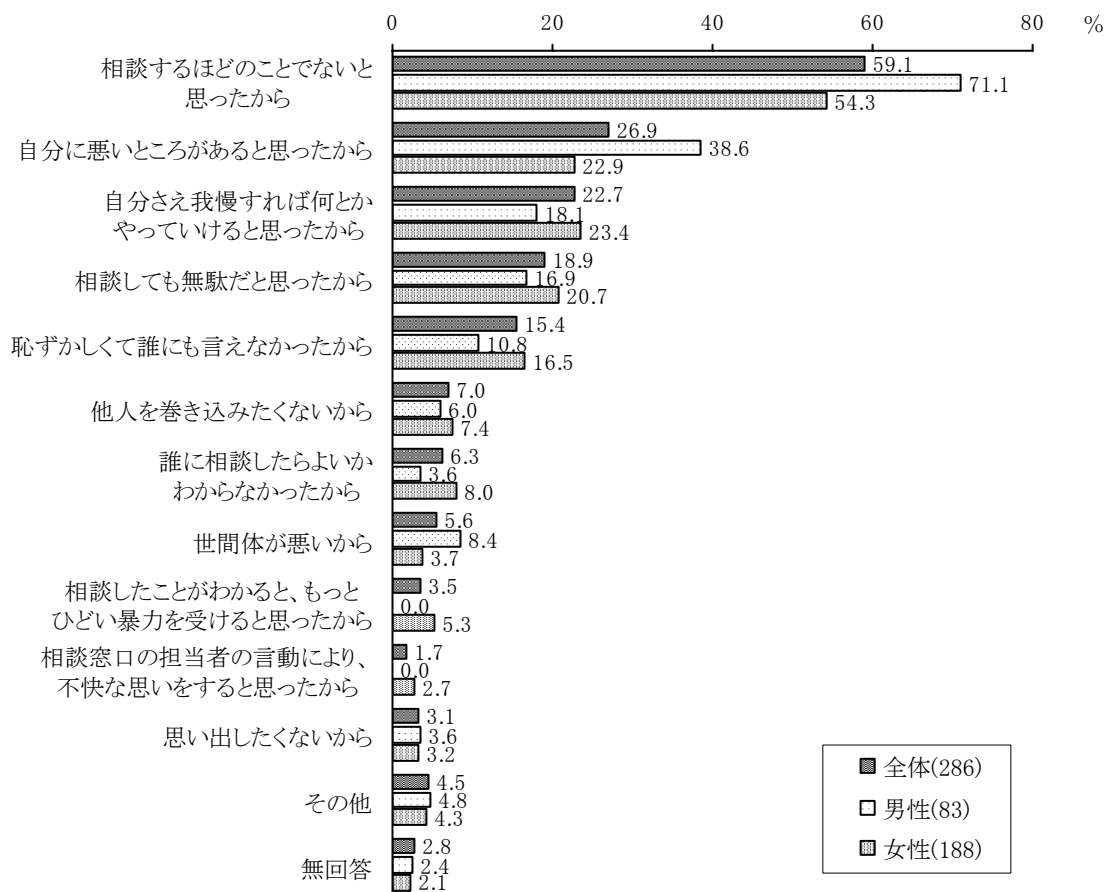


問19 - 4 相談できなかった理由

問19 - 4 【問19 - 2で「2 相談できなかった」、「3 相談しようとは思わなかった」とお答えの方にかがいます。】

あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（はいくつでも）

図表 23 - 6 - 1 相談できなかった理由



全体傾向

「相談するほどのことでないと思ったから」(59.1%) が最も多く、次いで「自分に悪いところがあると思ったから」(26.9%)、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」(22.7%) が挙げられています(図表 23 - 6 - 1)。

男女別の傾向

「相談するほどのことでないと思ったから」は、男性では71.1%であり、女性54.3%を17ポイント上回っています(図表 23 - 6 - 1)。

男女別の年代別の傾向

問19で、他の性・年代に比べ、被害経験を持つ人が多い傾向がみられた女性50代、60代をみると、相談しない理由として、「自分さえ我慢すれば何とかやっていたから」、「自分に悪いところがあると思ったから」が多く挙げられる傾向があります。また、女性50代については、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」が他の性・年代に比べ多くみられます（図表23 - 6 - 2）。

図表23 - 6 - 2 相談できなかった理由（男女別の年代別）

単位：%

	相談するほどのことではないと思ったから	自分に悪いところがあると思ったから	自分さえ我慢すれば何とかやっていたから	相談しても無駄だと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	他人を巻き込みたくないから	誰に相談したらよいかわからなかったから	世間体が悪いから	相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすると思ったから	思い出したくないから	その他	無回答
全体 (286)	59.1	26.9	22.7	18.9	15.4	7.0	6.3	5.6	3.5	1.7	3.1	4.5	2.8
男性計 (83)	71.1	38.6	18.1	16.9	10.8	6.0	3.6	8.4	-	-	3.6	4.8	2.4
男性 / 20代 (9)	66.7	22.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	11.1
30代 (16)	62.5	31.3	25.0	12.5	25.0	-	6.3	12.5	-	-	-	12.5	-
40代 (14)	78.6	57.1	7.1	14.3	14.3	7.1	-	7.1	-	-	-	-	-
50代 (21)	85.7	23.8	28.6	14.3	-	9.5	4.8	-	-	-	4.8	-	4.8
60代 (14)	64.3	35.7	21.4	14.3	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-
70代以上 (9)	55.6	77.8	11.1	55.6	22.2	22.2	11.1	44.4	-	-	22.2	-	-
女性計 (188)	54.3	22.9	23.4	20.7	16.5	7.4	8.0	3.7	5.3	2.7	3.2	4.3	2.1
女性 / 20代 (19)	57.9	47.4	-	-	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	-	-	5.3	5.3
30代 (29)	55.2	20.7	27.6	24.1	17.2	-	17.2	3.4	6.9	3.4	3.4	10.3	-
40代 (31)	61.3	22.6	16.1	12.9	12.9	6.5	9.7	3.2	3.2	6.5	6.5	3.2	-
50代 (48)	47.9	20.8	27.1	27.1	22.9	12.5	6.3	2.1	6.3	4.2	4.2	4.2	2.1
60代 (40)	57.5	17.5	30.0	25.0	15.0	5.0	5.0	2.5	2.5	-	2.5	2.5	5.0
70代以上 (19)	47.4	21.1	26.3	26.3	15.8	10.5	5.3	10.5	10.5	-	-	-	-